

園公立國島
内 寨

特254

210

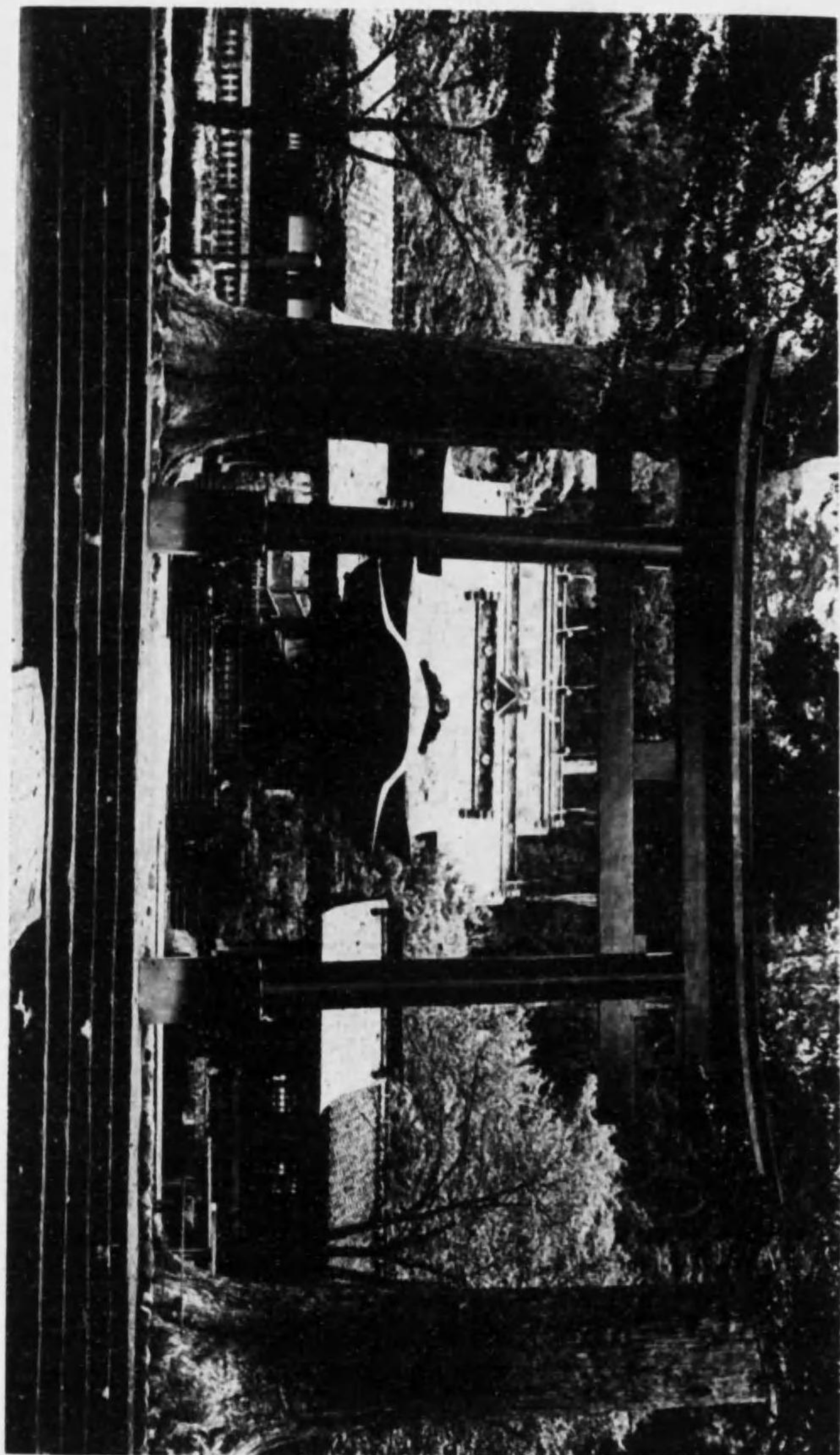


始

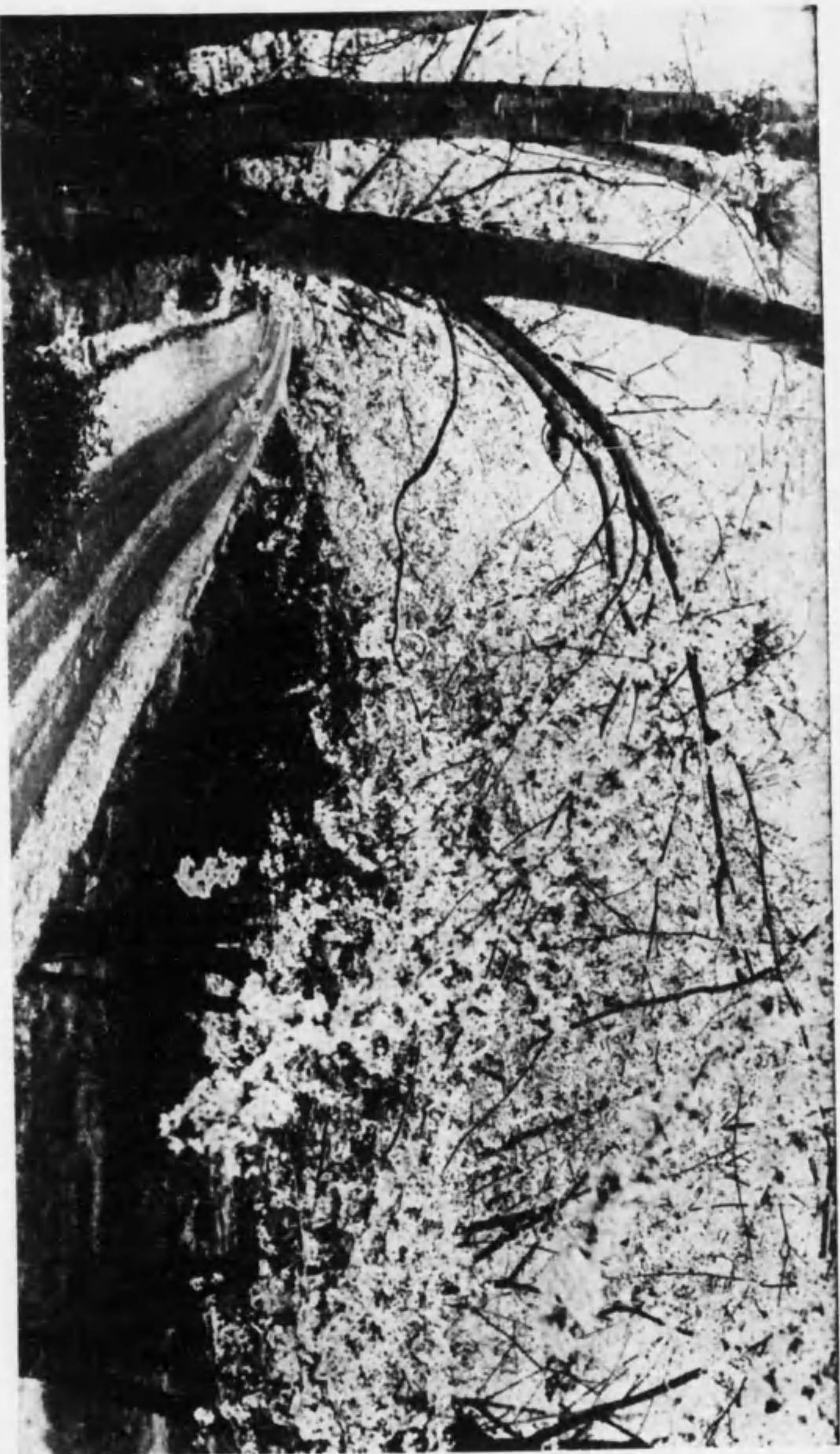


特254
210

宮 神 島 霧



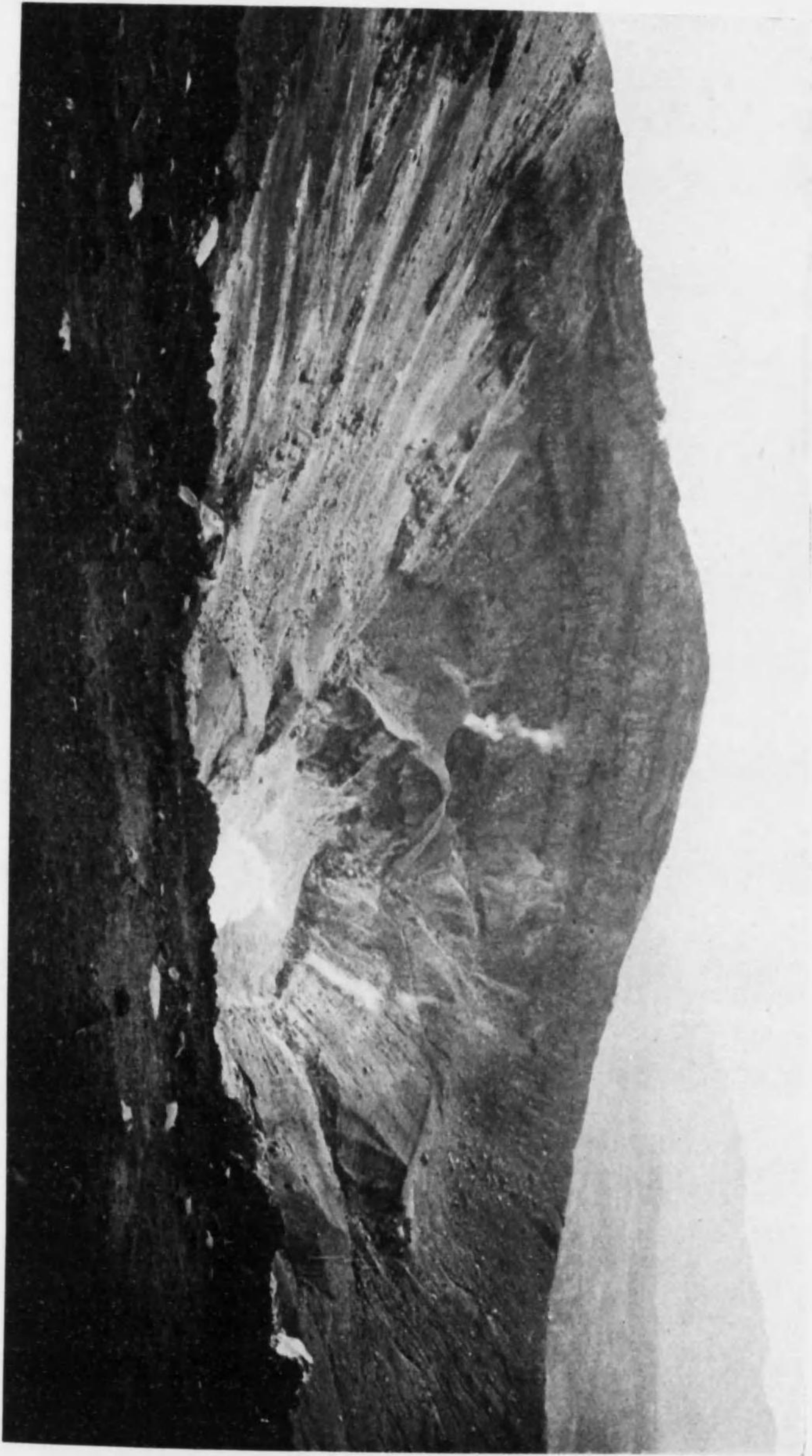
櫻の所馬種



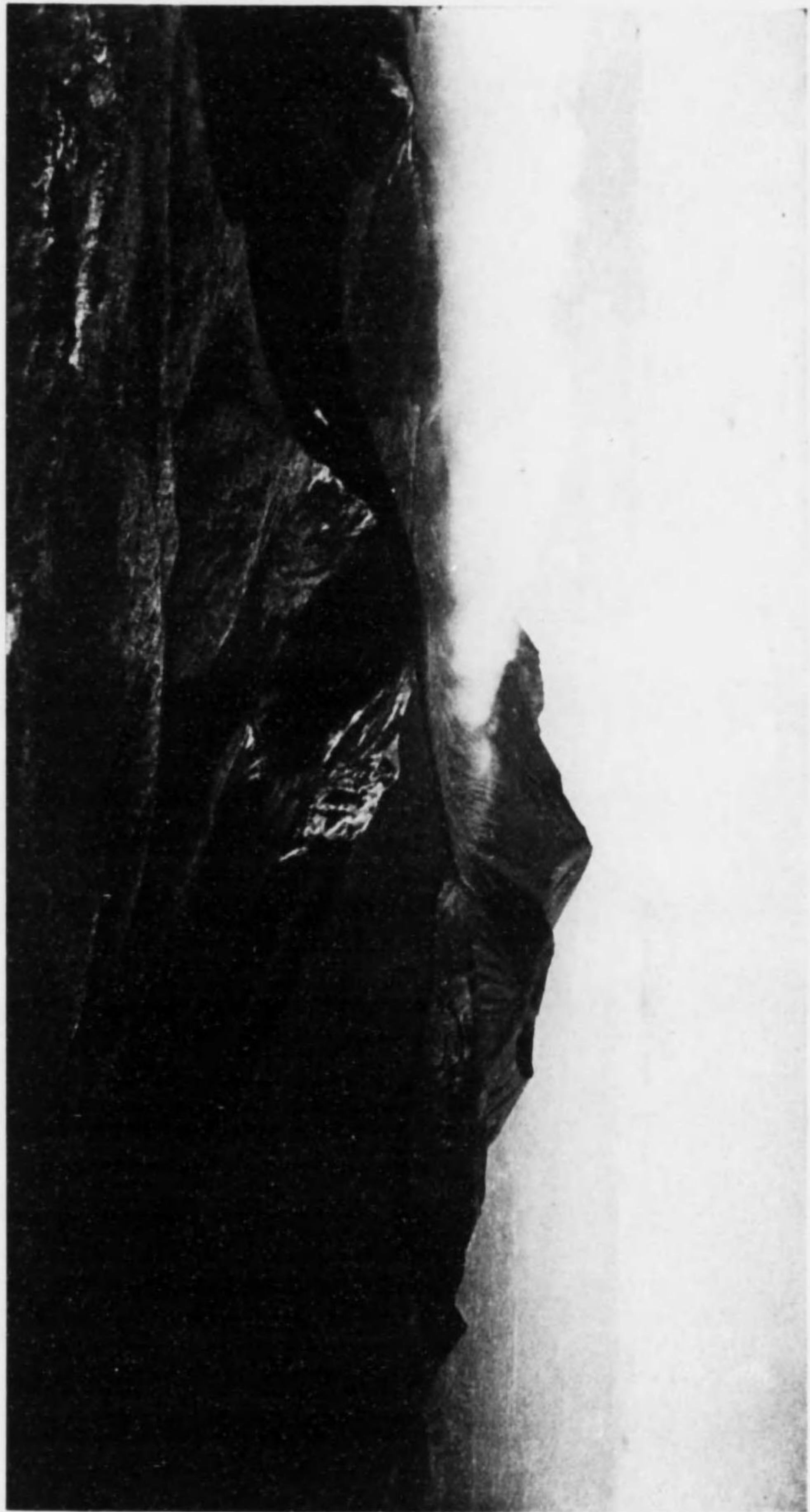
池 動 不



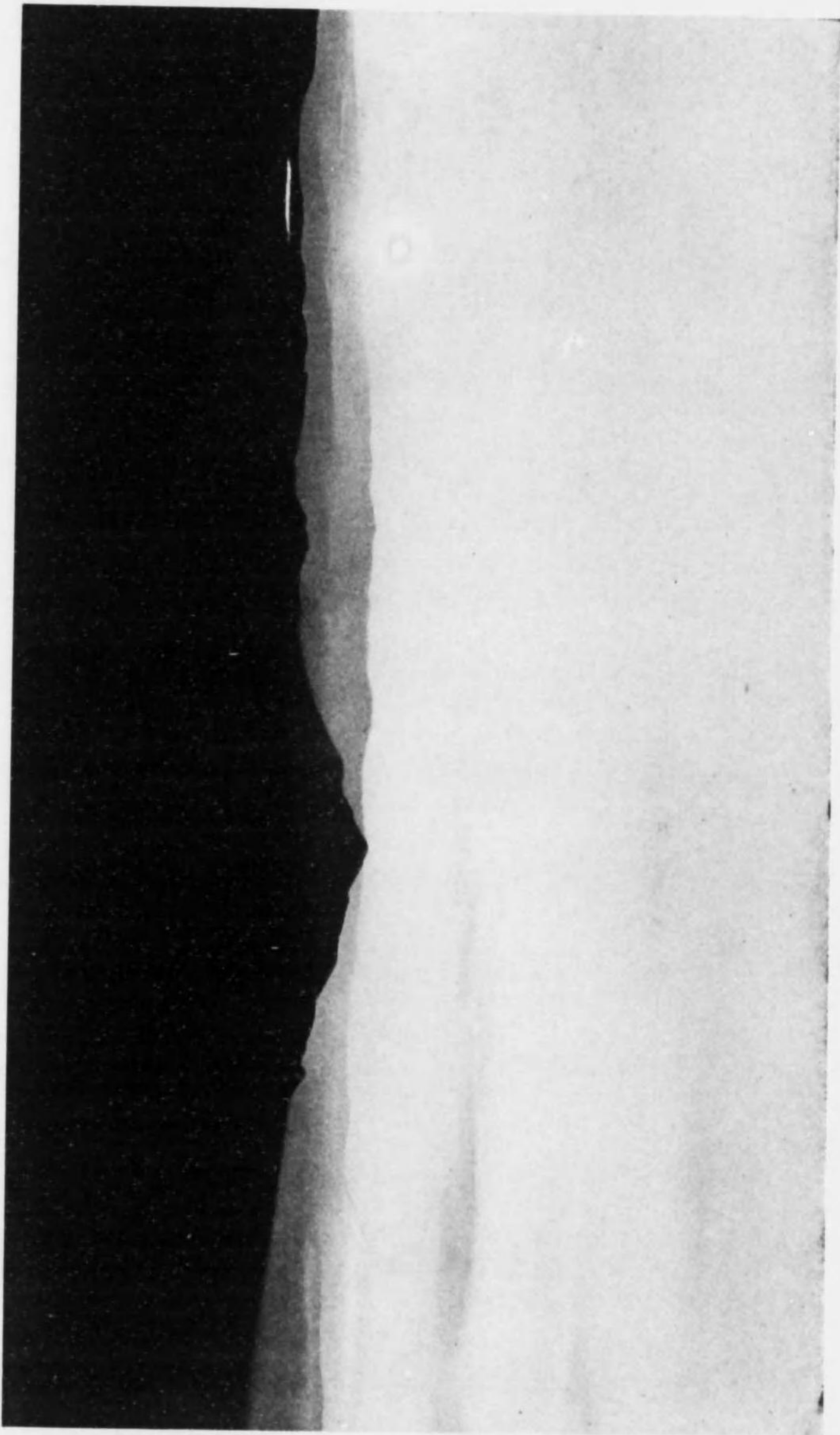
御鉢ノ噴火口底



鏡全ノ穂千高ヲ浮ニ外雲



迎來御の嶽國韓





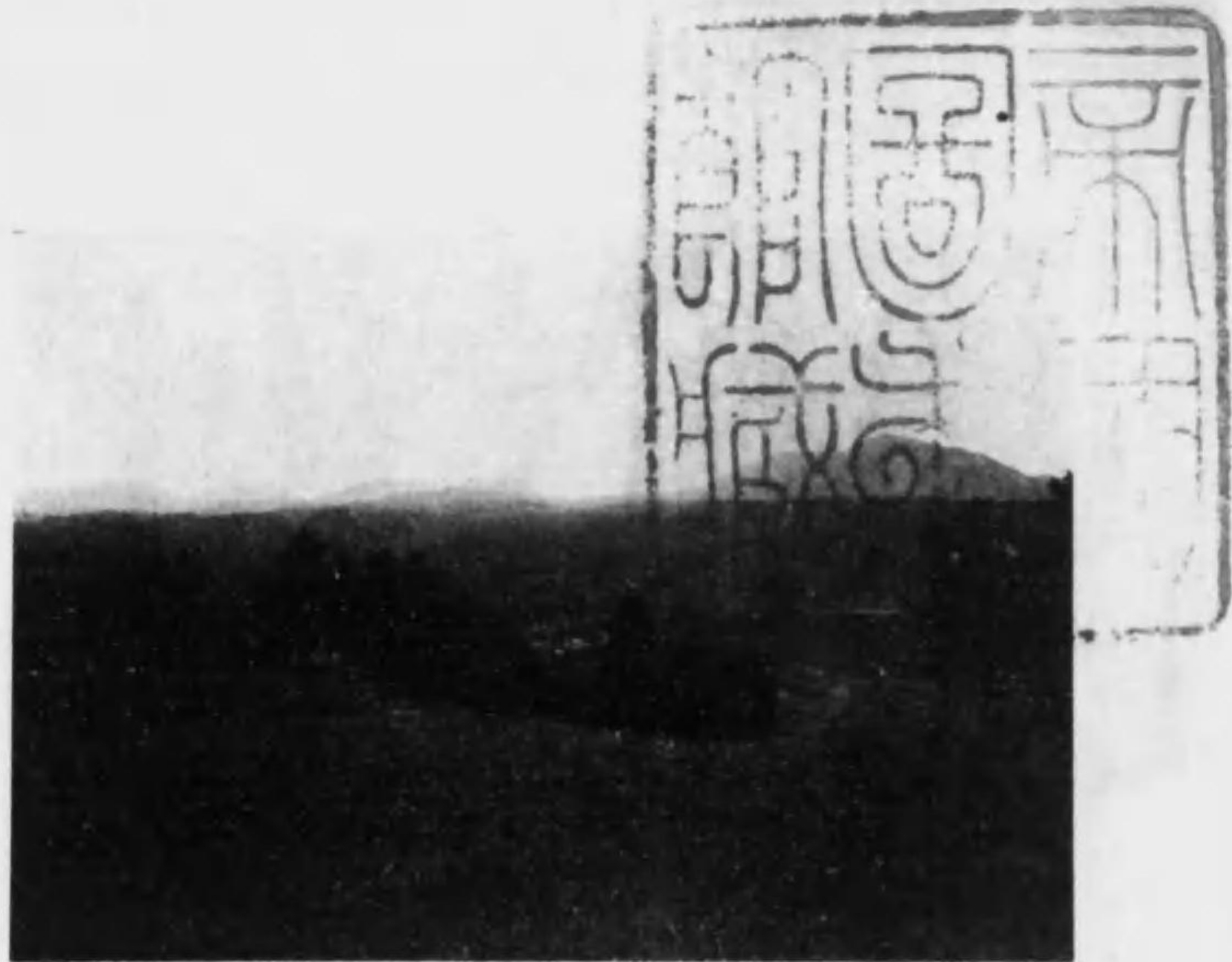
は し が き

今もなほ、あましのこの國原に、崇高くも天そり立つ高千穂の嶺よ！ 日本
黎明史は、かくてこの霧島山を中心に、嚇灼と展開してゐるのであります。

霧島山はまた、森林景觀第一の原始地帯であります。大小二十二の火山群
峯の流れ、崩れるところ、湖水となり、高原と走り、大樹海と化して、其處に比類稀
なる秘境を劃し、得難き寶庫を造り成してゐるのであります。

目に限りなき高原の朝夕、眉に迫る大森林の眞晝、思索に探求に、或は登山に
散策に、悠久に原始と清淨と自由とは、恒に我等の魂と俱にあり、常に我等の身
と共にあるのであります。心をゆるする山の感傷は、ちらつく湖畔の營火きやんぷありやに點
じ、隨所にこんくたる藥湯の恵みは、しみくと、あゝしみくと、生とし生け
る者に、些かの誇張なしに、そのまゝの幸福感を與へてくれるのであります。





霧島國立公園全景

霧島國立公園は九州の南端、鹿兒島、宮崎、兩縣に跨り鹿兒島縣側では始良郡、栗野町、牧園村、東襲山村、宮崎縣側は北諸縣郡西岳村、西諸縣郡高原村、小林町、飯野村、加久藤村の都合八ヶ町村が、それ／＼部分的にその區域に指定編入されてゐる、總面積二萬餘町歩、周廻三十六里、いわゆる霧島火山の中心地帯をなし、碁立する群峯十八、湖沼八、瀑布にして著名なるもの八、大淀川、川内川、新川等に朝淙する大小溪流に至つては、枚擧に遑がない。此の間高原あり、丘陵あり、原始相限りなき樹海あり、分布學上貴重なる植物群あり、隨所に湧出する温泉の如き、實に數十を以て數へ、著れたるものだけでも、大小二十箇所、尙此の外に、霧島山は人も知る「創國の聖地」として我國神代史、建國史に最も深

霧島國立公園の概観

今や霧島山は、國立公園となり、國家が自ら保護し施設して、皆さまの御來遊を待つことになりました。
ほがらかな南國の蒼天に、グツキリそゞり立つ霧島山の諸峯よ！ ある時は霧の輕羅に裝ひを隠し、ある時は燃ゆる緋模様を織り成して四季幾變化、春は映山紅の豪華圖を展げ、夏は翠綠の間、美はしき諸峯が紫の眼をあげて我等を應いてゐます。

薩摩、大隅、日向は古來史と景と人情の國であります、これに君臨して獨りさつ、そうたる霧島山！ ぜひ一度はこれに儼の杖を曳いて下さい。日本人として、明朗な近代人として……………。

き交渉を有し、考古學上、民族史的に幾多の遺跡を藏してゐる。

(1) 霧島公園の史的特色

霧島山が天孫降臨の靈地であることは、古事記、日本書記等で既に國民の常識となつて居る。

「爾皇孫往いて治めよ！」と高天原で、詔勅を承け給ふた瓊々杵尊は天兒屋根命、天太玉命以下の群臣を従へて、今し御降臨遊ばされんとして、遙か下界を見下し給ふと、つひ彼方に深い霧の海が見へる。その霧海のさなかに、ボツクリ浮いた一つの島、尊はそこで、御携への天瓊鉾を以て、霧の海を掻き採り掻き採りつゝ、その島に下りたゞせられた。此處が即ち世に云ふ霧島の高千穂の峰である。

また一説には、高天原より瓊々杵尊、御降臨の際、此處等一帯が、雲霧に打閉ざされてゐたため、尊は腰に携へ給ふた稻穂をとつて、投げ散らし給ふと、不思議や、一眸名残なく霧れて、よく御降臨の目的を達し給ふたと云ひ、今尙一月一日霧島神宮にては糶散らしの儀が行はれて居る。高天原に就ては、高千穂の東麓に當る宮崎縣西諸縣郡高原村の古老たちは高原村こそその高天原だと信じて居るが、永い間に、高天原が高原と音便化され、略稱されて來たものであらう。されば此峯は「降臨の峯」、「最初の峯」として尊く、之れを中心として、日本神代圖畫にいみじくも描き出された。我が霧島國立公園こそ、また最も尊い特色に、光り耀くと云はねばならぬ。

(2)

(2) 霧島國立公園の火山的特色

「火山、地形」霧島火山群は單式火山の密集形式による典型的群狀火山である。最初九州南部の中生時代水成岩地の凹地に噴出しその火山の殘體は今尙七百米以上の高地に存し西北に聳ゆる栗野嶽(高距一〇九四、二米)南方の烏帽子嶽(高距九八〇米)又同期の噴出に屬し共に新期火山噴出のために痛く侵蝕を受けてゐる。而して所謂霧島火山と稱するは、舊期火山の上に坐し西北より南東に亘る延長十三軒の横線上に連る新鮮火山群なのである。其全景を南面より觀れば、西部には最高嶺韓國嶽(高距一六九九、米)を中心として大浪池(一四一一、八米)及び蝦野嶽等合して一群をなし、中部には新燃鉢(高距一四二〇米)及び中嶽を(一三四五米)一群をなし、東部には高千穂峯(一五七四米)御鉢(高距一一八六米)及び二つ石が他に比類なき明瞭なる輪廓を形成する。古記録には西群を西嶽、中群を中嶽、東群を東嶽と稱して居る。若し全霧島火山群を北方より望めば、形態、輪廓、一層明瞭となる。而して又千三百米以上の山頂より、降而三百米の灰砂層臺地に至る迄、地貌判然區別し得べく、北方の夷守嶽に始まり、新燃鉢に於て東西に走る横線と貫通する南北の縦線、及び縦線に連坐する諸火山を列擧せば(い)横線(西ヨリ起算)——飯盛山・白鳥山・不動池・硫黃山及び韓國嶽(以上西群)新燃鉢中嶽(以上中群)御鉢高千穂峯二つ石、小池御池(以上東群)。(ろ)縦線(北ヨリ起算)。

(3)

第一列——夷守嶽、丸岡山、大幡池大幡山及び新燃鉢
 第二列——瓶嶽、御池及び蝦野嶽

而して當火山群を構成する諸火山は總數二十二座、火口の完全なるもの十五座、火口湖をなすもの八座、爆裂火口のみを有するもの八座、がある。是等の新期火山は地形及び性質に關して新舊二期に區別される。

即ち舊期に湧起せしものは、蝦野嶽、白鳥山、大浪池、韓國嶽、獅子戸嶽、大幡山、夷守嶽、矢嶽、小池、御池にして、夷守嶽を除けば主に堅實熔岩にて構成せられ、其熔岩の間に僅少の火山破砕物層を挿入し、山體は扁平狀にて完全なる大火口の窪地を頂き、尙斜面に爆裂火口を有す。孰れも火山活動期既に過ぎ去り現今は温泉に火山力を止むるのみである。

新期に噴出せるものは、飯盛山、瓶嶽、不動池、硫黄山、丸岡山、新燃鉢、中岳、二つ石、高千穂御鉢で、火山破砕物及び鎔岩の累疊により舊期火山と異り圓錐丘を爲すを特徴とし、中には釣鐘形をも混す。多數の火口は内面に急斜し、且つ深い火口壁は、破片の堆積多きために、舊期火山の火口に比較して破壊甚しく故に古き外觀を呈してゐる。本期火山は未だ全く火山行動を終了せず。山體未だ外界の營力を受けず。鎔岩原野は新鮮に其原形を保存して居る。

(七高阿多教授稿)

(4)

(3) 霧島國立公園の森林美

霧島山の美をなすものは、雄大壯麗にして、變化の多い山體水容であるが、就中、興るところ多きは隨所に鬱然たる千古斧鉞を知らない原始林相及び廣眸限りなき草原である。

試みに不動池畔に立ちて、北のかた瓶嶽を望み東のかた韓國山頭より山麓へひた走る常緑樹林の如き、畫のやうな赤松が遙かに裾を曳き、優婉、壯麗な林相を表はし、ま



霧島國立公園の森林美

た一群の赤松林が夕陽に染つて居る遠景は、げにも言語以上である。更に大浪湖畔に座し、六觀音池畔に踞すれば、椴、榊、檜、杉などを主とする針葉樹が悠久の湖面に倒影して、時に神秘きわまりなく、時に凄艶かぎりない。一方、常緑潤葉樹林も



韓國嶽の北西の草原

(5)

隨所に晝なほ暗き深林を形成し靈氣生ずるところ、千種萬様の植物が、草群をなして繁茂して居る。此の典型的樹林としては、銀湯渡しから太良温泉に連る一帯、栗野嶽或は白鳥温泉より白鳥山へ登る山道、丸尾山、湯之谷附近、及び矢夷守山麓附近などがそうであらう。

針葉樹としては、赤松、樅、檜、杉等がある。潤葉樹に至つては恐らく樫、楠、椎、柞、榊、ヒサカキ、椿、ゆづる葉、藪肉桂、シキビ、裏白樫等の如き、常緑潤葉樹を初めとして實に種類幾百なるを知らざる有様である。

(4) 霧島国立公園の草原美

霧島山の草原は悠久そのものである。林間を縫ひ丘陵を追ふて、一眸千里、野また野原また原の感じは、例へば蝦野山腹に杖を曳き、廣莫たる蝦野高原を望むとき、或は鋒投平、栗野嶽、烏帽子嶽の裾野、横嶽に佇みて、芒の微風を袖に受けるときに起るであらう。誰がいわれなく胸を塞ざし感激の涙にむせばない者があらうか。そしていみじくも奇しき神代の春は限りも無く打續く草原の果に、夢とも現ともなく聲影をひそめ、悠久と原始がたださめくと香なる郷愁を呼ぶだけだ。

(5) 霧島国立公園の植物群

霧島山は、我が國の植物分布學上、立體的に平面的に貴重な山である。無數の植物群が原始樹林の陰に、或は湖面に、池畔に、草原に四季に隨ひ、土地に應じて群落し、或は個生して居る。其大要を

記して見る。

山麓の海拔六七百メートルの地は、概ね常緑の潤葉樹林が珍らしい、タブ、ウラジロガシ、イケイガシ、イスノキが優生種であるが、中に赤松が密生して天に柱し霸を示してゐる處もある。黒松は一帯に少いが夷守嶽の一部には黒松の群叢も見られる。一千三百メートル以上には落葉樹が多い。オカメノキ、ヤシヤブシ、ブナ、コナラ、ミヤマキリシマ、ガクウツギ、ヒガケツ、ジ、ノリウツギなどがある。灌木地帯には、ヤシヤブシ、ミヤマキリシマ、ヤマハンノキ、ノリウツギ、ツクバネウツギ、ミヤマザクラ、トリアシヤウマ、ツクシヒゴタイ、ツクシゼリ、オトギリソウ、イタドリ等があり、頂上の草原地帯にはミヤマキリシマ、ノリウツギ、ツクバウツギ、ヤマハンノキ等が倭小の形で老境を見せてゐる、而して氣象學上からは全然高山的だと云はれるに不拘、高山植物が殆んど見られぬ處に面白味がある。

以上は霧島全體から見た植物分布の極めて概観に過ぎない。

大浪池附近

霧島温泉は海拔八〇〇メートルの地にある。此邊は赤松と樅の優勢種であるが、温泉地附近は民有地に屬する關係上遺憾ながら古木は概ね伐採されてゐる。大浪地に榮之尻温泉から登ると樅の大木が先づ目に立つ、ヤブニツケイ、クロキ、シイ、カヤ、シロカシ、イス、イヌグス、コナラ、エゴノキ

ホホノキ、カゴノキ、サザンクワ、ウラシオガシ、シキミ、ゴバンノキ、アオキ、イモノキ、ツリバナ、ミヤマカズミ、ゴンズイ、エンコウカエデ、ミヅキ、ヒサカキ、ツルグミ、ムラサケシキブネチキ、コメナ、アキノキリンソウ、オカトラノヲ、ノササゲ、シシカシラ、ヒメシヤラ。登るに従つて赤松の減少するを見る、灌木帯にはヤシヤブシ、ノリウツギ、シロバナウダン、ミヤマザクラ、ブナ、ススキで、是等が次第に倭小化して行く處に登山者の興味が一段と加はる。大浪池の内壁は潤葉樹とモミ、ハリモミ、ツガと混合してゐる。殊にヤシヤブシ、ミズナラ、ヤマハンノキ、オホカメノキ、ヒカケツツジ、ハリギリ等が多い。又菌類、蘇苔類、羊齒類も種類に富み、食用茸としては、シヒタケ、マツタケ、モミシメチ、ネヅミタケ、コセウタケ、ツガタケ、カブタケなどが季節には旅人を喜ばせる。

(6) 霧島国立公園の動物分布

山中の動物は、猪、野鹿、狐、狸、貉、鼯鼠、野兎等で、昔は狼も居た事が種々の記録に遺されてゐる。牧園村字万膳に在る貝吹丘は、狼來襲の時法螺貝を吹き立て、追散したので其名がある、しかし今は全然見ない(三十年前迄は積雪に足跡を見た)猿も群をなして居たが現在では稀に見るにすぎない。

鳥では佛法僧、鳩、鴨、腰白山鳥、雉、鷹、隼、カケス、豕木鳥、(エゲラ、大エゲラ)鶯、山雀、

目白、頬白、ルリ、駒鳥夏は隨所に杜鵑が聞かれる。鴨、鶯は冬季數百の群が渡來し大浪、大幡、觀音池に浮び鶯は池の結氷期に溪谷の流れに遊ぶ。

「佛法僧」佛法僧は霧島神宮、狹野神社、明礬温泉後山等の老杉、古木の空洞に巢喰ひ五月初旬渡來産卵離育して、九月上旬飛去るのであるが古來靈鳥としてその名高く晝は「ゲゲツ」と鳴き夜は「ブツポーソー」と鳴くので此名がある。

(7) 霧島国立公園

の瀑布と湖水

霧島山中には到る處に溪流、溪谷がある。従つて大小飛瀑もその數を詳知することを得



「僧法佛」鳥 靈

何れも懸崖に白布を垂れ

- 千里ヶ瀧
- 花房の瀧
- 手洗瀧
- 丸尾瀧
- 乳瀧
- 關平瀧
- 山之城瀧
- 神代瀧

爽氣、冷涼、身に泌みて、新緑に、楓葉に季節的變化の妙は、筆舌に盡し得ないものがある。更に湖水に至つては、往時から霧島四十八池と云ひ、先づ左の九火口湖が著名である。何れも三千尺乃至四千尺の高地に滿々たる碧水が溢れてゐるのが珍らしい。

大浪池、不動池、六観音池、白紫池、大幡池、御池、小池、琵琶池、湯之池地獄
 右の中大浪池が最も優れ六観音池、小池、御池が之に次いで何れも弟たり難く、兄たり難い特色を具
 備してゐる。

(8) 霧島国立公園の史跡と景勝

霧島山は東、西の二峯に岐れ、東の天孫降臨の高千穂峯（海拔一千五百七十四米）と西の山中第一
 の高峰である韓國嶽（一千六百九十九米、九）とが是れに連なる矢嶽、中嶽、白鳥山、栗野嶽、鳥帽
 子嶽等の起伏に抱かれてゐるのである。古書に「筑紫の日向の高千穂の穂觸の二上峰に天降り給ふと」
 あるは高千穂の頂きが御鉢嶽と二峯に岐れているからである。

【霧島神社】（鹿児島縣始良郡東興山村）

官幣大社、瓊々杵尊、相殿に嫡后木花開耶姫尊、御子彦火出見尊、御孫鵜養尊不合尊、其嫡后玉依
 姫及御曾孫余昆古尊（神武天皇）の六柱を奉祀してある。高千穂峯の西南麓に當り、老樹鬱蒼、神嚴
 の氣みち／＼てゐる。神祇全書には「人皇三十代欽明天皇の御宇僧慶胤の開基とあり、御神火にかゝ
 り村上天皇の天慶三年僧性空再興したが、爾來屢々、御神火洪發一時山麓の宇田口、と云つる地に建
 立して奉祀する凡二百五十年間、島津家十一代の國主陸奥守忠昌、現在の地に中興、文明十六年又々
 全焼、正徳五年五月（昭和九年より二百十九年前）島津氏二十一代の國主上總介吉貴、重建して今



官幣大社霧島神社宮頭一ノ島居

日に及ぶ。社殿の壯麗美觀神代諸神社中第一位で目下、畏く
 も伊勢大廟に次ぐ、勅裁社として昇格の議がある。境内千年
 の老杉には、珍鳥「佛法僧」が巢を營み、靜寂の氣一入深い。
 日本民族として、何を
 措いても一遍參拜せね
 ばならぬ。霧島神宮驛
 より定期乗合自動車で
 十五分。霧島四溫泉よ
 り三十分。

【高千穂峰】

（霧島山中）

天孫降臨の靈峯なる
 が故に、最初峯と云ひ、

天の逆鉾あるが故に鉾峯とも云ふ。高さ一千五百七十四米、玲
 朗壯嚴な山容も常に雲霧に頭を没してゐるが快晴の日は幾多の



天高氣清の秋の霧千高峯の嶽

火山群に抱擁され下界の山水を征服しゐる。其の雄大さと景觀の美は云はずもがな、萬國無比の史實を懐古して敬虔の念を禁ずる事が出来ない。徒歩で霧島神社より一里三十三町三時間余。霧島四温泉よりは二里二十八町とある普通四時間余を費す。宮崎縣西諸縣郡狹野神社から三里余約四時間。

【天の逆鉾】（高千穂頂上）

此の鉾は高千穂峯絶頂に突立つている。神代第一代たる諸册二神の天瓊鉾と云ひ、或は景行天皇が日本武尊に賜つた比々良木八尋鉾だとの説がある、その他にも種々の説が行はれてゐるが我國史實の上からは皇孫瓊々杵尊が神勅を受けらる時授かり給ふものとせられてゐる。青味を帯びて錆び小石に埋まり、地上部分八十七穂。

【背門丘】（高千穂峯と火當峯（御鉢（中間））

第二十九代欽明天皇の御宇（昭和九年より三百八十餘年前）、慶胤といへる人社殿を造營したるが、五十代垣武天皇の延暦七年三月、大噴火の爲焼亡したるの地木標を建て、跡を示す。今は水もなき峭嶮の山上で事實を疑ふ人がないでもないが、噴火以前は大森林で湧水があつたこ



天の逆鉾

とを想像するに難くはない。

【高千穂河原】（瀬多尾越）（中獄と高千穂峯との中間）

第六十二代村上天皇の天曆中（昭和九年より九百八十七年）聖性空上人社殿及別當寺を再建したが第八十七年四條天皇の文暦元年十二月二十八日（昭和九年より七百年前）又々山上火を發して社殿僧

坊悉く烏有に歸した。茲に於て二里下なる田口の字待世、と云へる地に待世行祠と稱する假殿を造營したのであつた。河原の社趾には碑を建て、記念されてゐる。

【御鉢火口】（霧島山中）

高千穂に直接し山中唯一の活火山であるが最近殆ど休火山同様である（大正三年櫻島爆發後）有名な馬の背越を経て、高千穂に差し掛る御鉢の急斜面は三十度もあつて、赤褐色の火山礫と軽石の傾斜が天そより、仰ぎ見て流石に礎若たらざるを得ない。堅き岩石の突角を見付け足場を作り、電光形によちる。かの橋南溪は西遊記に次の通り誌してゐる。

「登りかゝりてより絶頂に至るまで、たゞ一筋に登るなり。他



背門丘の馬の背越其他諸峯を望む

方の高山は多く登る所もあり、また下る所もあるものなるに、此の山のみ、水筋にも従はず、只登りにのぼるなり」。

【馬背越】（御鉢火口北輪）

容岩砂走の急斜地を登りつくせば馬背越で海拔一千四百米、右は噴火口、左は千仞の谷、馬背ほどの道幅で約一町位も續いて居るが、此處を経て、高千穂の峻嶮に差掛るわけだ。此の馬背を橋南溪は、恁ふ描寫して居る。

「それより二十丁を登りて、馬背越といふところに至る。また御鉢めぐりともいふ、この處は、のぼるに、たゞ平に行く」と雖も左右皆谷にして、劍の刃の上をゆくが如く、足を踏むところ僅かに馬の背中程なれば馬の背越とは云ふなり。足を運べば栗の如くなる焼石左右の谷へ崩れ落つ、その行くところ狭きを知るべし」。

然るに今では、雲霧のない平穩な日ならば女、子供でも大丈夫登れるのだから、一生に一度は是非試むべきだ。

【韓國岳】（霧島山中）

霧島二十二峯中の第一峯標高一千六百九十九米、九、舊火山に屬し直經九百米内外の圓形火口を有し火口壁から火口底迄三百米乃至二百米。摺鉢形をなし雨期には水を湛へるほど完全火口で蒼絶、俯瞰覺へず震慄を感ずる。頂上の展望は素晴しく豁達だ。錦江灣に浮ぶ櫻島の盆景は固より遠く阿蘇山、雲仙も望み得られ近くは蝦野、大良の大樹海を始め、大浪、大幅、六觀音、白紫の諸池はさらなり、霧島諸峯は高千穂以下雲霧を凌いで立派に指呼される。神代ながらの靈霧常

【韓國岳の御來迎】（霧島山中）



常 韓國の名稱は日本書記に「脊
嶽 尖之空國」とある「空國」をか
と らくにと呼び做したのが起りだ
韓 とある。昔は雪嶽、昆遮の峯、
嶽 樵の峯、大浪の峰、生邊の峰と
も云つたと云ふ記録が残つてゐ
る。霧島四温泉から山徑傳ひに
約二時間半乃至三時間。



馬背之越

高千穂の峯の御來迎もいゝが、韓國嶽は霧島第一の高峯で、山中二十二峯中の中心に位してゐるだけ更に一段の壯觀だ。午前三時頃（無論季節で時間は異なるが、霧島温泉を出發一路間の林道を縫ひ大浪池の外輪を廻りて頂上に到れば一息入れる間もなく新燃岳、高千穂のあたりに黎明がくる。それが眞紅となり、茜と變り、薄紙ほどに棚引いた朝靄の中から、迥に島芙蓉を浮べた錦江灣のあたり水平線と覺しく一分毎に明かるさが増してくる。と瞬間白熱の大圓球が高千穂峯の左、地平線に躍り上る。太陽だ！ 御來迎だ！

【大浪湖畔】（霧島山中）

霧島四温泉より晝尙暗き處女林を縫ふて登る事約一時間餘。韓國嶽の南麓。直經一公里。海拔一千四百二十米内外。六百尺の斷崖に抱かれた神秘、幽邃の火口湖で千古の碧水を湛えてゐる、霧島四十八池中第一位に立つもので、樅、梅の針葉樹の中に楓や其他の樹木



池 浪 大



(紅山映)じゝつの嶽燃新

湖畔に鬱生し、初夏の若芽、映山紅、秋の紅葉美しく湖面を染める、冬は凍結尺餘關西第一のスケート場たり。更に錦江の盆景を迥に見て、脚下に迫る大樹海の變化と雲海の迥迥は季節のヨキ贈物である。大浪池に就いては、一つの傳説がある、お浪と云ふ優しく、美しい娘に絡まる物語がある。（卷末に載す）大浪の池には今も尙神龍が棲むと云ひ、湖畔の静寂をみだし、或は赤い布切れを見せると、俄に怪雲が起り豪雨を呼ぶと傳へられる。

【新燃岳と中嶽の躡躑—映山紅】（霧島山中）

海拔一千四百二十米八。高千穂と韓國嶽を繋ぐ一線上の中央にあり。新燃には經七百五十米、深さ百七、八十米の火口あり。内に綠色の水を湛え、成層火山の特徴を具備し、二個の爆裂火口と噴氣孔の跡残り、文久年間頃迄は盛に噴火したので新燃の名がある。此の新燃岳と中岳とは、五月下旬から六月上旬の候にをいて、數百町歩に亘る映山紅の大群落が森林帯のつきる處、一面の草原を覆ひ、奇岩怪石に懸り、紅に紫に全山を焰と化し、文字通りに霧島初夏の豪

華圖を展開する。此の群生は新燃嶽と中嶽の中腹より絶頂に最も多く、獅子戸嶽から韓國嶽の東側より、遠く大幡山にも及んでゐる。山腹は五月下旬より六月上旬に花盛りとなる。登山コースとしては霧島四温泉から高千穂道を北折し約三時間で行ける。山の西北スロープにはヒカゲツ、ジが毎年五月中旬には満開となる。(結實の關係で花の多寡が隔年に交代する)

【種馬所の櫻】 (鹿児島縣始良郡牧園村)

鹿児島種馬所の所在地、海拔五百三十米餘。附近諸丘陵には、淺緑の牧草がやさしく畝を打ち、駿馬原頭に嘶く、春四月初旬、一帯の沿道には、數町に亘る櫻樹が満開し、花か霞かの駘蕩たる風景を現出する。高原の櫻として他に多く其の比を見ない。牧園驛より四〇分。霧島四温泉から十五分。其沿道に當る。

【手洗瀧の風趣】 (霧島山中)

中津川の支流、手洗川に際し、手洗温泉北方約五丁にして手洗瀧がある。瀧は約五十米、巾五、六米、水量は多くないが、周囲の絶壁、翠綠、相照應して季節々々には變幻の妙を現出する。

【花房瀧】 (霧島山中)

丸尾温泉と手洗温泉の中間山城溪谷にあり。高さ約三十五米斷崖に白布を垂れ、水煙谷を埋めてゐる。殊に水量豊富で山内では千里瀧に次ぐ豪壯且つ美觀である。丸尾温泉より約十二三丁。

【湯之池地獄】 (霧島山中)

此の地獄は手洗温泉の奥に當り、鉾投平の北麓海拔八百米爆裂火口として蝦野岳火山に屬する。火口直徑五百米、東南に開口し絶えず銀泥色の熱湯が煮えかへり約一町歩の湯の池が地獄となつてゐる。

此附近に奥之院と稱する岩窟や、芒之院、泉水など往古の遺跡散在する。今は一寸不便であるが國立公園の施設が進めば、此邊は大いに發展



湯之池地獄

して中心地となるであらう。



實性地獄

【實性地蔵】(山中)

嶽湯と湯之池嶽との中間大良溪谷上流にあり。銀湯より約廿町檜造林の中を北方に登り登りて、造林地につきる處、原始林中に八疊敷位の巨岩あり。徑二尺の圓輪の中に地藏尊の立像を刻す。向つて左側に寛文四年辰十二月二十一日とあり、素より作者や寄進者の名を残さず従つて由緒等知るに由なし

いが古來安産の山之神だと傳へたるものなれば交通の便を得るに従ひ賽者少からざるに至るであらう。

【小池と御池】(高千穂の東麓)

小池は鹿兒島縣霧島神宮驛より三十分の行程、沿道より五、六丁山路を辿れば、蘆葦の密生した湖畔に達する。文字通りの原始湖で深藍を湛え、蔦紅葉絡み靈氣鬱然たるものがある。人北海道の摩周湖と比較して本邦湖水の二大双壁だと云つたがまことに至言である。

御池は小池入口の縣道より自動車で、五分の行程にあり。沿道より低位、周圍三里、水深百米、熱帯湖で舊火口である。霧島四十八池中の最大で、高千穂を背に氣品高い麗貌を備へ、池



池 御 と 池 小

畔に佇めばしみじみと感傷が湧く。僧性空と龍神との傳説も残り宮崎縣水産試験場では鮎、ワカサギ等の養殖場としてゐる。

宮崎縣西諸縣郡高原驛より二十分。

【狹野神社と皇子原】(宮崎縣西諸縣郡高原村)

神武天皇御降誕の靈域で、神社には神武天



巖石ツ二るあに腹山の穂千高は景宵・池御

皇正妃

吾平津

姫命、

天津彦

火瓊々杵尊、

木花咲耶姫命、

彦火々出見尊、

豐國姫命、

鸕鷀草

葺不合尊、

玉依姫命を合祀してある。孝昭天皇御宇の創建で、

爾來しばしば御神火のため社殿焼失、一旦、高原村宇西麓に社

殿を營んだが、慶長十五年神火終熄と共に舊地に復り、今は宮

崎神宮の別宮となつてゐる。境内の杉並木は狹野杉として有名

で珍鳥「佛法僧」が來り棲んでゐる。朝鮮役後、藩主島津義弘



木並杉道參社神野狹



【丸尾瀧の美観】 (霧島山中)

霧島神宮から霧島四温泉へ通ずる新道路の沿線にあり。瀧の大部分は湯で霧島四温泉が此處に朝涼してゐる。白羅を透して美しい柱状節理がはつきり見へ、水は碎けて、飛沫となり、水煙となつて、爽涼萬斛の思ひを深からしむ。

丸 尾 瀧

公が、新納武藏をして栽植せしめたもので天然記念物に指定されてゐる。
皇子原は狭野神社の西八町。柵内に二個の石が並び狭野尊(神武天皇御幼名)の御誕生地として傳へられ附近に皇居の跡と云はれる皇子原や被原産婆石、拔川血捨木など、いみじき傳説地が多い。宮崎縣高原驛より自動車で十五六分。



千 里 ヶ 瀧

【千疊敷】 (霧島山中)

丸尾瀧と硫黄谷の中間、谷川の岩盤が不思議に坦々砥の如く流水音なくして平盤上玉を轉す如き美観をなしてゐる處を千疊敷と名づけてある全く他に於て見られぬ處である。

【千里ヶ瀧】 (霧島山中)

霧島川の溪谷で湯之野温泉の下手約十町の處にある。霧島温泉と霧島神宮との中間で



山中の歩道に沿ふ。凡廿五丈山中第一たるは勿論鹿児島縣下にも比類がない。鬱然たる森林の中に千古の神祕と寂寞を破つて滔々懸崖に白羅を落し水煙谷間を覆ふの景観は凄絶極まるものがある。發電事業の爲め最近水勢の三分の二を失つてゐるのは實に遺憾と云ふべきである。

【六観音池】 (霧島山中)

宮崎縣西諸縣郡加久藤驛に下車、白鳥温泉から新改修の山徑を傳つて四時間餘。鹿児島方面からは霧島四温泉を出で、大浪池、蝦野高原、不動池畔を迂回して三時間餘。一名御池と云ひ、周圍一里餘の温帯湖である。池畔には岩霧島神社と六観音神社がある。瓶岳を背景に、此の池は夕陽の時分が良く圍繞する杉、樅、梅、檜、赤

松などの針葉樹が、櫻楓などと交錯して湖面に倒影し、まことに比類すくない絶景を織り出してゐる。六観音は五月八日が例祭で牛馬の神様として畜産業者の賽者が二萬人を越ゆると云はれてゐる。白鳥と僧性空に因んだ傳説があり、此附近では白鳥の殺生は嚴に戒めてある。

【白鳥神社】（宮崎縣西諸縣郡飯野村）

白鳥山の中麓に當り、海拔六百米内外の山中に鎮座。飯野驛より途中迄自動車に登る。僧性空の創建にかゝり、日本武尊を奉祀。白鳥に化した日本武尊の傳説や鳥津、伊東の戦ひに白鳥が軍兵の姿となつて、鳥津勢を援けた物語が残つて居る。鳥津家の氏神として義弘、家久公等の尊崇極めて篤かつた。最近道路と共に社殿の改築成り、境内には數百年の老杉が亭々として聳へ神秘の氣が深い。

【硫黄山】（霧島山中）

韓國岳の中腹、全山塊狀の溶岩から成り、火口淺く、所々の硫黄孔から、硫黄又は硫化水素、亞硫酸瓦斯が音響と共に噴出してゐる。一面昇華硫黄で黄色く見へ、ために、硫黄山の名が



山 黄 硫



湯 川 の 原 高 野 蝦
(も 語 物 を 儘 其 前 年 千 三)

ある。蝦野高原の北道から登るが、麓には硫黄精煉所がある。

【賽の河原】（硫黄山に在り）

蝦野高原北遇から硫黄山を登りつくした處に河原があり、石を積んで、地獄の一丁目、賽の河原に擬してゐる。

【不動池畔】（霧島山中）

新火口湖、周圍には樹木がない、直徑一百米内外、池そのものよりも池畔の展望が美しい。遠く東に夷守の秀嶺を望み、韓國山頭から北麓へ走る赤松林、嶺嶽を望んで西北に連る同じく赤松の群生畫とはこんなものかと思ふほど美しい。足許には、季節になると、映山紅が一面に咲き誇る、霧島四温泉から蝦野高原を経て

【蝦野大高原】（霧島山中）

霧島四温泉から大浪池畔を過ぎ、約二時間餘の行程。韓國南麓の大高原で四五十町歩の廣さ、霧島山諸高原中の第一位で北隅に硫黄山の噴煙搖曳し、南隅には蝦野岳の緩スロープが美しく裾を流し韓國嶽を仰げば枯木の残骸を交へた高山。林相の美、悠久三千年の昔を物語るに充分である。東南に當

り、野生海棠の群落が小溪流に沿ふてゐるが、硫黄山麓からは熱湯が小流をなして貫流し隨所に川湯の原始的浴場を作る。何しろ深山たるため訪ふ人も極く稀だが、將來霧島公園の中心となるべき場所であらう。

【蝦野の野生海棠】（霧島山中）

大正十三年、内務省より天然紀念物として指定された、蝦野高原東南隅の溪流に沿ふて自生し高さ一丈餘に及ぶもあり、高原の靈氣に生きて居るため、五月の開花期には鮮麗、優婉な花をつけ、美觀形容を絶する。

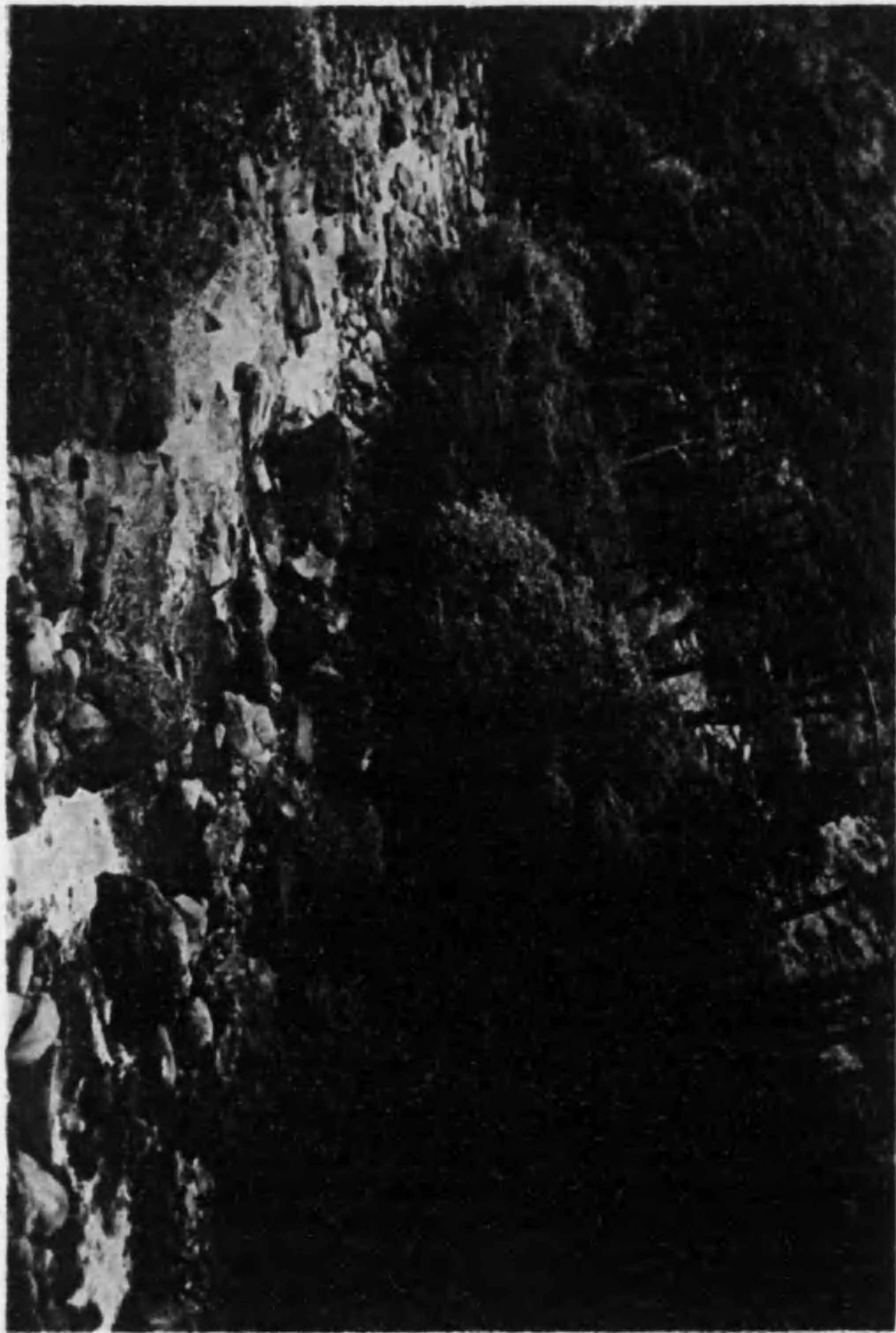
【霧島川の溪谷】

韓國嶽と獅子戸嶽の中間の山腹に源を發した細流が幾多の支流を合して霧島川となる。源より湯野野、千里瀧を経て神宮前に到る間約二里半、其間六つの瀧あり。傘の如く伸たる赤松や雑多なる原始林の中を奇岩怪石をかんで急落する溪流に鳴く河鹿や時々去來する雲霧の裡に囀づる小鳥の聲を聞く時、全く神仙境に遊ぶの感がある。



棠海生自

谷溪野之湯三島霧





霧島大湖のスケート場

【蝦野溪谷】

大浪池の西麓を流れて手洗に出づる迄に數個の飛瀑を有する谷川である。殊に加治木渡附近には幽邃なる溪谷の美が見られる。

【山之城溪谷】

大浪の南中腹に源を發する川で種馬所に至るの間、山之城瀧花房の瀧がある。

【大浪池のスケートリンク】

大浪池は海拔一千四百二十米の高地であるから従て氣温も低い、極寒の候は零下七八度に下り、池の水面は凍結して壯觀を極める、南國に北國あるかなと不思議の感に打たれるであらう。氷の厚さは毎年一尺以上に達するを常とする、昭和九年の一月は殊に寒かつたので、二月迄一尺五寸の厚さを保つていたから將來一大スケート場として種々の施設が考へられるに至つた、温泉場からは近し毎年スケート競技會でも開いたら關西唯一のウィンタースポーツ場として全國の選手を集むるに至るも蓋し遠くはあるまい。

【霧島山の霧氷】

霧が凍結して高原地帯の落葉樹又は枯木に水晶の玉をちりばめたるが如きを霧氷と稱する。霧島山は其名が示すとほり、霧が名物で四季それ／＼の趣を呈するが、冬季、極寒の候に至れば、その霧が微粒をなして結晶し、旭陽に映へ夕陽にかざらうところは、言語に絶する。霧島山は一千二、三百米の高原地帯なら隨所に此の景觀が見られる。就中大浪池附近から、獅子戸嶽のあたりへかけて、白珊瑚か水晶樹林かの風景を現出する。冬季は、一浴の餘暇、是非一べん、こゝらに杖を曳いてみる事だ、雨上りが急に寒くなつたりした時や吹雪の翌日、又は雲足の早くない寒い日ならば必ず之を見ることが出来る。

(9) 霧島国立公園の温泉群

霧島公園は、霧島火山帯の中心部を占むるだけ、温泉には實に恵まれてゐる。諸種の卓越した特色の中でも最も普



霧島公園の霧氷

遍性を有するものは、矢張り保養、治療、兩面の實益に立つ、此温泉群でなければならぬ。しかも霧島温泉群の最大特徴は、それ／＼含有成分と、その構成分量を異にすることだ。それだけに治療的價値も多種、多様、を極めて居る。第二の特徴は、泉量の豊富と高温度であり、彼處の溪谷、此處の低地に滔々河をなし、濛々たる白煙はとざして咫尺を辨せず。第三は氣候で夏は涼味萬斛會て華氏八十度を越へず。冬は暖で零下四度を下らない、従つて最適な避暑避寒の地である。學者の説では森林が寒暑共に緩和するからだとある。第四は附近いたる處に理想的泉水、溪水が湧き、毫も用水に事缺がぬこと。国立公園内是等の温泉は實に數十ヶ所を數へてゐる。なほ區域外にも相當開發された温泉町



霧島温泉の湯

が散在する。次に擧げるのは區域内のもので、多くはなほ原始状態を存するものである。然し公園施設の進捗に伴ひ、それだけに、一層將來が約束されるわけだ。就中、硫黄谷、榮之尾、明礬、林田、の四温泉（文中霧島四温泉とは以上を呼ぶ）及び丸尾温泉は鹿兒島市、霧島神宮、同驛及牧園驛とに定期乗合自動車があつて交通至便、尙郵便局があつて公衆電話が架設されて居る。

【硫黄谷温泉】（鹿児島縣始良郡牧園村）

霧島四温泉の中心地である。温泉の湧出口は六個、而かも泉質各々異り、硫黄泉、明礬泉、鹽類泉、鐵泉などで不思議な程多様であり、種々の病治に利用される。又湯量豊富なる恐らく全國に其比があるまい。瀧となり、湯河となつて落流し壯觀を極めてゐる。濛々たる湯氣は四時湯の町を立ち罩め、温泉氣分百パーセントである。二十米位のプールの設けもあり、寛を以て豪壯に最適、霧島温泉郵便局も此處にある。旅館は三層樓に大廣間を設け殊に離れの新館は數奇を凝らしてゐる、外に自炊宿舍が軒を接し、盛夏避暑客約一千人を收容する。大弓場、テニスコート、子供用グラウンドあり。近く流川を堰き自然川湯の計畫もある正徳年間の發見。



硫黄谷温泉の全景

【林田温泉】（鹿児島縣始良郡牧園村）



林田温泉の全景

霧島四温泉中の最前線を選んで近年建設された新進の温泉旅館である。櫻島を前に眺望廣潤、座臥の間、よく四邊の風光を把握し、景觀の雄大隨一の稱がある。新進の氣が溢れ、設備としては二百人を收容する大旅館の他に數百人を容るゝ貸別荘と自炊宿舍もある。浴槽清爽で湯瀧もある。卓球、撞球場まで用意されて遺憾がない。なほギヤレジも特設されて廣場には一時に三四十臺の自動車を並べても差支へなく、近く大ホール建設の計畫もある。經營者林田氏は九州自動車王の稱ある人、従つて鹿児島市との直通及牧園驛神宮驛間乗合自動車も經營して居るので都合がよい。

【榮之尾温泉】（鹿児島縣始良郡牧園村）

海拔八百米の中津川溪谷、大浪池火山の南斜面に群在する霧



榮之尾温泉の全景

島四温泉の一つで、展望の豁達、錦江灣の盆景を望み、居ながらにして薩山隅水を脚下に收め、背後には大森林を負ひ、又一貫の清流がせゝらいである。文久元年藩公島津氏は此處に別荘を建て避暑地とした。今尙其一部の建物を遺して旅舎に充てゝゐる。湯量豊富で湯瀧やプールの快も恣に出來殊に浴槽は廣々として其設計の妙と相俣つて氣持がよい。泉質は硫化素泉、鹽類泉、明礬泉、溫度七十度乃至九十度發見は延享四年、大浪池の登山口である。

【明礬温泉】（鹿児島縣姶良郡牧園村）

硫黄谷温泉の上手にあり森々たる樅の原始林に包まれ幽邃の地である。數ヶ所の湯には安山岩の間隙に發し、泉質は弱酸性硫黄泉と中性含鐵鹽類及び明礬を含み、殊に清澄にして透明他に比なし。プールの設けもあり霧島温泉の奥の院の形で何となく落付がある。旅館は高千穂館と云ひ大小宿舎軒を並べ、宿泊に、自炊に不便はない。此の温泉の裏山傳に高千穂登山口があり、大浪池の東の登口でもある。



明礬温泉

【丸尾温泉】（鹿児島縣姶良郡牧園村）

霧島四温泉に至る沿道にあり。四温泉迄十五、六分の行程に過ぎぬ。後方に森林を控へ前方はるか錦江灣の盆景を望まれる。此の温泉は文政二年の發見、アルカリ性炭酸泉で旅館設備も氣持よく整ひ、通話、交通、至便。前記の四温泉に次ぐ温泉である。附近には丸尾瀧、千疊敷の名所あり。背後の高原は散策に快適には五、六軒の旅館があり、茶店が賑い土産品も販賣して居る。湯は泉温、泉質共に申分がない。神宮参拜だけで時間の餘裕のない人は、此處で一浴さるゝがいゝ。



丸尾温泉旅館之景

又唯一のキャンプ場である。附近には別荘も散見される。牧園驛と、神宮道路の分岐點であるから將來がある。

【神宮温泉】（鹿児島縣姶良郡東嬰山）

霧島神宮より二町下手。縣道に沿ひ、二階建の温泉宿舎が新設されて居るが、風光絶佳、浴槽設備も野趣があつて面白い。神宮に近いだけ浴客も多く附近

【栗野嶽温泉】（鹿児島縣姶良郡栗野村木場）



栗野嶽温泉全景

栗野嶽の西斜面、海拔七百五十米。俗に岳湯と稱せられ、栗野驛から二里、定期自動車で四十分餘、羊腸たる山道を縫ふて登り登る、沿道の大觀、小景は捨て難い、發見も古く、栗野岳の爆裂火口に關係があり。酸性硫化水素や蒸氣を發する。湯源の泉温九十度内外。鹿兒島縣衛生課の分析によれば、ラチウムエマナチオンの含有率縣下第一、恐らく温泉としては、日本一ではないかと稱せられる。自炊宿舎、旅館とも完備し、眺望豁達、附近には緩スロープの草原、美しき楢林もあり、又南州翁遊獵地として記念碑が建つて居る。地獄の壯觀も珍らしい。

(34)

噴火口の中に小丘陵が段々形をなし少しく上方に當り廣大な湯之池地獄がある。附近一帶隨所に各泉質の異つたる熱湯が沸き、蒸氣を發し、又四温泉と栗野嶽温泉とを繋ぐ地の利を占めて居るから將來の發展が力強く期待される。宿舎は貸間制度で、自炊客には先づ事を缺かない。泉質は無味質の弱酸

【手洗温泉】 (鹿兒島縣始良郡牧園村萬膳)
種馬所の上鉾投平の東麓、中津川の支流に沿ふて居る。舊

性硫黄泉と單純泉で消化器病によい。炊事には温泉の蒸氣が利用される。附近名所としては、乳瀧、手洗瀧、湯之池地獄、奥之院、鉾投平などがあり、少しく南方の高臺に出れば錦江灣が眼界に迫つてくる。海拔七百五十米。キャンプの適地も多い。

【鉾投温泉】 (鹿兒島縣始良郡牧園村三體堂)

鉾投平の南麓、海拔七百米、櫻島を眼下に眺める景は又格別である。此温泉の効能は往時より温泉の王座を占めてゐる、就中胃腸疾患には服、浴併用して卓効がある。胃潰瘍、胃痛患者に入浴を勧め、無色、無臭酸性鹽類泉、鹿兒島養育院長佐藤茂助氏所有者園村との間に幾年かの借地契約をなし、養育院の分院を設け奉仕的温泉經營中である。三百年前の發見で、名稱の由來は島津伊東の木崎原合戦で、島津が凱歌をあげ、此處で鉾を收めたのに存すると云ふ。目下平家三、四棟自炊設備もあるが交通不便で、村人以外この恩恵に浴する人のすくないのは惜しいことである。

(35)

【大夏温泉】 (鹿兒島縣始良郡萬膳太良)

栗野岳から銀湯渡を越えて一里餘手洗温泉から二十五丁、海拔七百五十米許りの個所にある。牧園驛から約二里、此の温泉は蝦野岳に屬する爆裂火口中に存する泥地で蒸氣孔を伴ひ、熱湯を湧出させてゐる。之を浴室に導き冷水を混じて浴用に當てゝ居る。男女用の浴槽が一對あり小規模乍ら、湯瀧もある。温度は湯源八十度内外、酸性單純泉、自炊宿舎も二、三棟あり附近は森林が圍繞して、閑靜

そのもので、今を去る百八十年前の發見である。霧島國立公園道路施設が完成するに随つて將來を約束されて居る。

【關平温泉】 (鹿兒島縣始良郡牧園村三體堂)

鉢投の南東、種馬所、牧草地一之坂の西北、手洗川の下流に位置し幽邃の溪谷、安山岩の間隙から滾滾と湧出して居る。野趣其ものゝ自炊宿舍が設けられ、間數も七、八個ある。無色無臭無味の單純泉で泉温五十度内外、こゝは晝尙物恐ろしい、峡谷に臨み、奇岩を縫ふ溪流の風情は一入である。やゝ下流に關平瀧が、三段のきさはしをなして、雪白の布巾を流し秋の楓葉は燃ゆる友禰模様を織り成してゐる。今ではなほ交通不便で村人以外に恩恵に浴し得ないのは遺憾であるが、公園道路網の充實と共に興味は將來に懸け得る。

【殿湯】 (鹿兒島縣始良郡牧園村)

一名御前湯とも云ふ。霧島温泉の下方にあつて、安山岩の間隙から湧出、温度は五十二度内外、無色無味、無臭の鹽類泉で浴地の底の砂粒が明かに數へられる程の透明な温泉で發見も古い。湯も奇麗で昔から殿湯がよく見えて居たと云ふので、殿湯又は御前湯の名がある。然し今では單に種馬所の使用風呂になつてゐるに過ぎないが、經營よろしきを得れば有望である。

【栗川温泉】 (鹿兒島縣始良郡牧園村)

中津川流域の幽邃なる溪谷に望み潤葉樹林に包まれた温泉である、海拔五百米。温泉は岩間から滾々と湧出し泉質は弱鹽類泉及明礬泉、無味、無臭、無色、温度六十五度内外。文久二年の發見である。交通不便で思ふにまかせず自炊宿舍も可成り整つて四時相當の賑ひを呈してゐる。大いに將來ある温泉で丸尾瀧より溪流に沿つて下る近道がある。

【鹽湯】 (鹿兒島縣始良郡牧園村)

種馬所より丸尾温泉に到る縣道沿線にあり極めて簡素なる茅葺の客舎が建てられ、浴場も野趣満々たるものがあるが温泉は、鹽分を多量に含み皮膚病に特效あり又、疝氣疝癩に効目著しく將來有望なる温泉の一なり。

【銀湯】 (鹿兒島縣始良郡牧園村萬膳)

栗野嶽温泉から向へば約一哩餘、栗野嶽と手洗湯との中間である、極く原始的で一棟の藁家と浴槽と云ふほどでもないさゝやかな湯小屋が一軒建つて居る。湯源はそれから二、三間後方にあつて、名の示す通り銀泥色の熱湯が不斷に濁音を擧げ煮え滾ぎつてゐる。之を誘導して浴用に使つてゐるが、目下はなほ交通不便、設備、宿舍とて整つてゐないが一般向には未だなつて居ない。

【新湯】 (鹿兒島縣始良郡牧園村)

新湯は大浪池の東南斜面、霧島川支流の溪谷で、南方に硫氣孔があり近來迄硫黄を採取してゐたも

ので、岩石も腐爛し附近の土は黄白色を呈して居る。此地點に二ヶ所の小池があつて、暗灰色の熱湯を漂え、それを導いて浴用に供してゐる。泉温九十度内外無色透明の濃厚なる硫黄泉で硫化水素の微臭を放ち、微量の砒素を含有して居るから舊名を砒素熱湯と呼ぶ。此處は特に楓葉の美に冠絶し幽邃なる溪谷美にも富む。霧島温泉から高千穂道を辿り新燃嶽登山の途中である。明礬温泉から行程約三十分。今では寂しい一軒家と一棟の自炊長屋があるに過ぎないが將來は最高地の温泉として有望である。

【湯之野温泉】（鹿兒島縣始良郡東豐山村）

高千穂霧島四温泉を連絡する道路途上八百五十米の地點に在り、湯源は浴場西北の地獄及び極く近くの岩石の間隙に發する。地獄は温泉の西北の岩壁下に濛々たる蒸氣をあげ九十五度、蒸氣孔には硫黄と泥とを混じた暗灰色の熱湯が沸騰し硫化水素分多く周囲の岩石は腐蝕し灰白色の陶土と化してゐる。附近には小泥火山が隨所に濁音を擧げてゐるから注意を要する。泉質は鹽類泉。弘化三年の發見で、近くに霧島川、千里瀧の景勝があり、四温泉より高千穂登山の中間であれば從て將來の發展期して待つべきか。

【湯之谷温泉】（鹿兒島縣始良郡牧園村）

硫黄谷温泉の上から小橋を渡れば小杉林の急坂を登ること約二丁、平地に達した處から直に森林の中を下る道がある。約五丁にして溪流に沿ふた山の温泉が夫れである。泉質は硫黄泉の外炭酸泉が

あり、湯量豊富幽邃の地ではあるが交通不便のため知る人が少ない。霧島神宮と温泉間新道からの小徑もある。將來ある温泉と云ふべきである。

【山之城温泉】（鹿兒島縣始良郡牧園村）

鹿兒島種馬所上方にあり、幽邃なる溪谷に沿ひ、湯量豊富だが交通不便で未だ設備がない。數年前迄は噴泥、旺に沸返っていたが近九十度内外。浴槽の底面には黄褐色の沈澱が出來、泉質は酸性、硫化水素分も相當に強く、酸味のあ



白鳥温泉

來衰へてゐる。霧島公園施設の完備に隨ひ最も華やかな將來を豫定し得るものの一つであらう。

【白鳥温泉】（宮崎縣西諸縣郡飯野村）

白鳥火山の北斜面、海拔八百米。加久藤驛から山路傳ひに五哩餘（二里餘）白鳥火山に屬する爆裂火口に關係があり、此の邊一帯に岩石が多く、その間に僅に平坦地を見出し、温泉が湧いてゐる。泉温

とに滋味が残る。自炊用の宿舍のほかに、旅館が一棟建つてゐる、道路改修の完成と共に將來の發展が期待される、なほ附近地獄の壯觀も珍らしい。

【岩風呂】（霧島山中）

四温泉行縣道の終點に近き硫黄谷、林田温泉の分岐點より約二丁下手縣道に沿ふた、鬱蒼たる森影に隠れて溪間に自然の浴場が出来てゐる、約一坪の巖窟は泉温恰も入浴に適したつくるなき出湯を滿々と堪へているのは見るからに、すが／＼する一浴。俗塵を洗へば清快の氣迫るものがある。都人士に喜ばれるは尤である。

公園地外の諸温泉

霧島公園地域内の著名な温泉は大體以上に説明したが、地域外にも諸處に温泉が湧出する其二三を擧げて遊覽者の便に供したい。

【鹽浸温泉】（鹿兒島縣始良郡牧園村宿窪田）

湯壺の石に鹽の結晶が附着したので、鹽浸温泉と稱するとあるが、泉質は土類炭酸泉溪流に沿ひ小品的風景を有し、夜半水のせゝらぎを聴いては河鹿の聲に詩趣を感じると云つた仙境、旅館一軒、自炊設備は完全し縣下有數の温泉である。嘉例川驛より約二哩。牧園驛から自動車二十分で達する。

【日之出温泉】（鹿兒島縣始良郡牧園村宿窪田）

櫻樹の絢、躑躅の艶溪流楓葉の風情は一入であるが、湯は百仞の懸崖に湧出し、鹽浸湯と安樂湯との中間に介在する。泉質は含鐵炭酸鹽類泉で、無色透明、隼人驛より自動車の便があり、旅館なきも自炊設備には缺くるところがない。

【妙見温泉】（鹿兒島縣始良郡牧園村宿窪田）

當初田圃の中に湧出した無名湯であつたが浴槽を設け、共同湯を開始してから各般の設備整ひ、漸次外來者も多くなつた。泉質は土類炭酸泉一旅館と自炊宿舍が完備してゐる。鹿兒島市より霧島四温泉への自動車沿線に當る。神経痛、リョウマチス、に特效あると云ふので湯治客が多い。

【安樂温泉】（鹿兒島縣始良郡牧園村宿窪田安樂）

安樂川の清流に沿ひ奇岩飛水の風景は捨て難い。泉質土類炭酸泉、無色透明、清涼甘味を有す、旅館二軒、下宿屋數軒、牧園驛から四哩半、隼人驛から三哩自動車定期がある。霧島四温泉へ向ふ沿道に沿ひ、附近に和氣清麿公配所の跡があり。近郷一の名瀑、犬飼瀧がある。直下約六十米（十八丈餘）奔湍岩を咬み、水煙濛々遠雷の如きものがある。

【日當山温泉】（鹿兒島縣始良郡隼人町日當山）

鹿兒島市より一時間、定期自動車の便あるため、日曜祭日には日歸りの浴客多く、旅館の新築、浴場の改善など近來の發展は目醒しい。東郷湯、元湯、丸湯などあり、大正館、加藤館には瀟洒な内湯

家族湯もあり。無色透明のアルカリ泉。通話、交通、至便、郵便局もある。

【山之湯温泉】（鹿児島縣始良郡隼人町）

日之出温泉と川を隔て、相對し宿舍自炊、貸間完備して浴客四時絶ゆることがない。砂蒸もあつて古くより評判の温泉である。

【吉松温泉】（鹿児島縣始良郡吉松村）

吉松温泉は吉都線起點肥薩線の中央である、停車場から十二、三町にして數ヶ所の温泉がある般若寺、竹田、村岡、阪口、前田、西田、雪松、日之出、中野等があり前田、般若寺は旅館の設備があつて四時客が絶へない。

【京町温泉】（宮崎縣西諸郡眞幸村）

京町温泉とは眞幸村（吉都線）京町驛の附近數ヶ所にある各温泉の總稱である。かみなり温泉、玉翠館温泉、眞砂子温泉等があり、又三軒を隔て、吉田温泉があつて吉都線沿線での温泉郷である。霧島山北の登山口飯野に近い丈け將來の繁榮が約束さるゝ譯だ。

(10) 傳説・神話

史の山として傳説と神話には頗る富である、重なる二三を擧げやう。

【大浪池の由來】



大 浪 池

今は昔此池の麓三體堂と云ふ里に金持の御庄屋があつた、何一つ不足はないが四十の坂を越ゆるに子寶のないのが淋しき不足であつた、或時庄屋は山池の邊りに行くと一人の美しき娘が石の上に遊んでいた、庄屋はこんな山中に、どうして、女の子が一人いるかと思へば忽ち何處ともなく其姿を消してしまつた。甚だ不思議に思つたが、歸つて妻に其話をすると、妻はそんな女の子が欲いと云ひだした、夫からと云ふものは毎日其山池の邊に其娘をさがしに行つても見當らないので渚に立つて神々に子供を賜はれかしと祈つた、程なく身重となつて産んだのが女の子であつた。

庄屋夫婦の喜びと云つたら無かつた、蝶よ花よと可愛つて其名も「お浪」とつけた、而かも不思議な事に

はかつて庄屋が池の邊で見た小女に一つも變らぬ其儘の生寫し瓜二ツの顔形だと思はれた、月日は流れて早や十八の春が過ぎた。

諸處から結婚の申込が殺到した、素より一人娘、婿養子でなければならぬ。數多の若者の中から撰ばれた田口邑の或豪農の息子、某に白羽の箭が立つた、しかしお浪は、一向に頭を堅に振らない只其話を聞かざるゝ毎に淋しく笑ふのみであつたが遂には重い枕についてしまった。

庄屋夫婦の驚きいかばかり、醫者よ薬とさわげど、きゝめがあらばこそ、美しかつた頬の肉、今は全く見るかげもない。

或る夜の事、娘は急に、山の奥に行つて見たいと云ひだした。とんでもないと夫婦は止めて見たが、きゝ入れぬ、泣く子と地頭には勝たれぬ、遂に父親は娘の乞ふがまゝに山奥に月光を浴みながら上つて行つた。

程なく池のほとりへと來た。

お父さん左様ならと云ふが早いか、さんぶとばかりお浪は池の中に飛び込んで仕舞た。

はつと庄屋は早や氣も狂はん斗り。

「お浪—お浪—。悲痛な叫は向の輪壁に、こだまするのみ。

庄屋は泣き叫びつゞけて夜を明かした。

太陽は昇らゝと池の面を照している。

お浪はとう／＼二度と其美しき姿を見せなかつた。

「お浪」とは此池に棲む龍王の化身であつた、庄屋夫婦のせつない願ひに感應して暫くの間、庄屋の娘となつていたのであつた。

それよりして此池の名を「お浪の池」と呼ぶに至つたがいつの間にか「大浪の池」となつてしまつたのである。

庄屋はせんかたなく、立歸り物語れば妻の嘆き一方ならず、遂には二人共病の床についてしまつた。

床の中から、明け暮れ、お浪／＼とよびつゞけたので人此庄屋を呼ぶに「床なみさん」と云ふに至つた。

今も尙牧園村三體堂と云へる大浪山の麓に「床波某」氏と云へる有志があり其庄屋の子孫ではあるまいかと云はれてゐる。

又「床次」「床浪」と云ふ姓も此處に發してゐるであらうと云ふ人もある。

【日本武尊と白鳥神社】

白鳥神社には尊き傳説が残されてゐる。

白鳥神社は前項に記した如く祭神は日本武尊である、昔釋性空、此山に來たり六觀音池の邊にて七日七夜修法練行すると、一人の老翁忽然として現れ、性空に向つて曰く、我は是日本武尊なり、白鳥

と化して此山に住む事久しと又忽然として去れり。

茲に於て性空、山の半腹に靈廟を立つ、是即ち白鳥神社なりと、又此峰を白鳥山と云ふなり。

日本武尊は此山の麓踊の里（今の牧園村）に熊襲の首魁を伐ち都に還り給ひ、更に東征遊ばされ幾多の偉功を建て給ひし後、遂に伊勢の能褒野に薨じ給ふ、時に御年三十、天皇聞し召し大に歎き給ひ百官に命じて能褒野に葬らせ給ふ。時に尊、白鳥と化し陸より出で大和の國を指して飛び給ふ。群臣等其棺を開き見れば只御衣のみ留まれり。是に於て白鳥を追ひ尋ねければ、大和の琴彈の原に停まれり。仍て其處に亦陵を造れり。白鳥は更に飛んで河内國舊市邑に留り給ふ、其處に亦御陵を造る、故に世に白鳥の三陵と云ふ。然かれども白鳥は遂に天高く飛び去れり。

其後は白鳥の留りし所何國と傳ふることなければ、尊の靈は皇祖の發祥する此霧島の山中に永へに停まり給ひしか。

註 性空上人は霧島山中に六社權現を建立した釋聖で其傳記を左に抜萃すると、

釋性空は平安城の人にして橘善根の子なり、母は源氏、諸兄皆難産なり、空を采む時、母毒藥を食し其胎を壞たんと欲す、而して誕るゝに及び殆と覺へず、胎を出づる時、右手を拳りて開かず、父母強いて啓き、一枚の針あり、生ると三日忽所在を失ふ父母愁へて求むれば庭の草叢の中に在りて安座す、幼より老に至る迄微笑の姿あり。絶へて龜言せず、年三十六にして出家す。人跡至らず、鳥音を



（瀧流）一の讀思不七

聞かざる深山を尋ねて日州霧島に往き、庵を結び而して居る、或は數日を隔て、食い、或は食せずして旬を曆たり……居る四歳、筑紫背振山に移り住す。（元亨釋書所載）

霧島神宮下に釋性空の墓がある。

【天狗堂】（霧島東神社々務所）

性空が此處で修法練行を積んでいると、當山の守護神である「大津坊」と云ふ天狗が現はれて一挺の斧を與へた、それが今も社寶として「天狗の斧」と云つて保存されている。今の社務所が新築された當座はよく眞夜中に天井などで大した音がしたので、天狗の仕業に違ひないと云ふので誰云ふとなく、天狗堂と呼ぶに至つた。

【山中の音楽】

山中の處々殊に蝦野高原、霧島神宮境内に眞夜何處ともなく妙なる、神樂が聞へて來たる事があつた、韓國嶽の東の山腹にある、琵琶池の邊りではよく琵琶の音が聞へたと云ふので琵琶池の名がある。

【七不思議】

霧島神宮に傳はる七不思議は、天逆鉾、佛法僧、龜石、風穴、兩度川、洗瀧、文字岩等であるが、是れは今日では別に不思議でもなく總て解決されてゐるから別に怪む人もないから記さぬ。

(11) 霧島國立公園登山コース

霧島國立公園を觀るには先づ官幣大社霧島神宮に参拜し山の中腹に位する全国的に有名な霧島温泉に足を止め、夫れから何れのコースを撰ぶかを定めるが便利である。

一、鹿兒島本線より鹿兒島市を経て、若しくは別府方面より日豊線で宮崎を經霧島公園に到る場合

霧島神宮驛下車（日豊線）

霧島神宮驛（一里二十九町）霧島神宮

霧島神宮下にて下車参拜すれば温泉行きには次の自動車と連絡する（参拜に三十分を要す）

霧島神宮（自 二里二十三丁）霧島四温泉

丸尾温泉は四温泉の十六丁下手であるから下車自由。

二、鹿兒島本線より鹿兒島市を經、若しくは熊本、八代、人吉方面より肥薩線で霧島公園に到る場合

牧園驛下車（肥薩線）

牧園驛（自 六十里）霧島温泉（要時間五十分）

途中霧島神宮参拜が出来ぬから温泉着後参拜の時間を考へねばならぬ。

日歸登山

日歸登山の場合には温泉の見物を了ゆれば登山は大浪池位が關の山であらふ。林田、榮之尾から登れば、最初四五町計りは急坂であるが中程の森林帯は恰も散歩状態で婦人小供と雖譯はない。一時間半で大浪池に達する。足と時間に餘裕さえあれば是非外輪の火口壁を一巡すべきである。（渚岸は不可）左手より外壁を辿る小徑を四、五丁登りて眼界の廣濶なる高所に達し蝦野盆地に連る。新床林の林相美には驚かされる。春なれば（五月上旬から中旬）山櫻が點々艶を競ひ、秋なれば錦を織りなす紅葉に目も眩む。又廻るに連れて湖水の色は變化する。北東の高壁に到れば獅々戸新燃、高千穂の裾野が眼前に展開し殊に逆鉾が指呼されて雄大なる事限りがない。其處から二丁を下れば左に別路で明礬温泉に下る道を見出す、往路とは異つた林相を賞しつゝ一時間で明礬に下る。（此コースを逆に、明礬を振出しにしてもよいが、初めが緩で七、八合目からが頗る急坂だから困難を感じる。）（所要時間往復三時間半）

一泊の場合

第一日 午前温泉に着けば前記の順序で大浪地を經、韓國嶽登山を敢行すべきである。大浪池か

ら頂上迄二十四丁頗る急斜で八、九合目からが殊に甚しい。高山には稀なる森林帯で、ルリ鳥や駒鳥の聲を聞きつゝ登れば一時間で達する。頂上をきわめて歸るだけなら暮色迫らざるうちに歸宿が出来る。(要時間普通速度で往復五時間餘)

第二日 宮崎方面を指す人は高千穂に登りて逆鉢の處から同縣の高原村の狹野神社に下るを便利とする。併し荷物があつて人を雇ふ等の不便があれば再び温泉宿に歸るか荷物丈けを自動車に托して霧島神宮驛に送り置き、御鉢を下つて高千穂河原から左折し、神宮境内に下り参拜して、神宮下の茶店に客待ちの自動車を拾ふて、驛に向ふがよい。(要時間七時間餘)

此順路は明礬温泉上の新燃、新湯の分岐點を右に取り一旦湯之野温泉に下り、湯之野地獄を見て、下手の溪谷を渡り、新燃嶽の裾を横ぎる、登り／＼て霧島特有の赤松原始林を過ぎると、四十分計りで九百八十年前の霧島神宮跡の高千穂河原に達する。粗末なる茶店がある、茶店と云ふより水店と云つた方が良いかも知れぬ、夫れは水をサイダー瓶一本五錢に賣つてゐるからである。秩父宮殿下の記念碑の處を右に取つて愈々胸突八丁に差かゝるのだが山中第一の難所丈に心臓の弱い人は此處で庇古垂れるのである。馬の脊越に達すれば、風雨のない時なれば何等の危険を感じる事なしに辿られる。聽て御鉢と高千穂の峰との中間窪地に達するのであるが此所が一千三百餘年前、欽明天皇の御宇、慶胤上人が初めて霧島神宮を建立した背戸丘で其遺跡を示す木標

がある。鹿兒島縣のつきる處で鹿、宮兩縣を一跨越に出来る。是れから頂上迄は約二丁頗る急であるが頂上が、見へているから勇氣が加はつて左程の難澁を感じない。

頂上から宮崎縣に下れば狹野神社にも出るも、御池の方に取るも三時間はかゝる。

二泊の場合

第一日 大浪池、韓國嶽の絶頂を極め、西に噴火口の外輪を傳ふて硫黄山、賽の河原、不動池から六観音池を見、白鳥山、白紫池を賞し蝦野に下り、天然記念物たる有名な野海棠を見て、蝦野川に沿ふて林間の小徑を辿り、加治木渡し、丸木橋を渡り、四十八谷と呼ぶ無數の谷間を越へて温泉場に歸る。(行程六里)

(要時間八時間往復普通白鳥山が閑却されてゐる)

第二日 明礬温泉から新湯を經新燃嶽に登り(五六月の候なれば)天下に比類なき映山紅みやまかりしまの美觀を賞し東に縦走し中嶽から高千穂河原に下り、登山する。馬の脊越迄は約四十分乃至一時間を要す。頂上を極むれば夏でも寒くて長くは堪へられぬ。歸路は神宮に下り、自動車で温泉に歸ればよいが足自慢の方々は湯之野温泉下の千里瀧を尋ねて歸れば心残りがない。

第三日 各温泉巡りがまだであれば一巡して各温泉の有する特色を見て、宮崎方面、鹿兒島方面に向ふ人は神宮驛に、鹿兒島方面と人吉、八代方面に向ふ方は牧園驛に下るのが便利である。

(註) 霧島神宮と宮崎縣狹野神社(御池は中間)間約七里は林間のドライブ道路である。スピードを出せば一時間で走る。併し定期乗合がないから適當に考へねばならぬ。將來は登山せぬ人の好觀光コースたるべきである。

三、韓國嶽、獅子戸嶽、新燃、中嶽、高千穂峯の縦走。

韓國嶽に向つて午前五時旅館を立てば七時半には韓國嶽の絶頂に着く。それから東に進み琵琶池を左に見ながら獅子戸嶽に下る。續いて新燃、中嶽と峯傳ひに走れば高千穂河原には十時前後には行かれるから御鉢を經高千穂に登り宮崎縣の狹野に下るのは健脚であれば左して難儀ではない。(要時間十時間)

四、霧島神宮から直に登山を欲する人は神宮境内から登山口がある。高千穂河原まで一里半だが二時間を要する。時間の都合で高千穂登りを先きにして、後温泉に落ち付くも一方法である。併し荷物があれば自動車で温泉宿迄送つて置くが便利である。下山は引返さずに直接山傳ひに温泉に到れば途中の、大觀、小觀も恣に出來て登山の意義が深い。

五、鹿兒島より、若しくは八代、人吉、山野線から霧島國立公園栗野嶽々湯方面を直指す場合

栗野驛下車(肥薩線)

栗野驛に下車すれば嶽湯迄(二里)は自動車がある約三十分、蝦野に出で韓國に登る道がある。三

里の道程左して坂路でない。

山腹を東に横ぎれば山中の諸温泉を縫ふて霧島四温泉には其の日に早く到着する。

嶽	湯—銀	湯(一里)	銀	湯—大	良(二十丁)
大	良—湯之池地嶽	(二十五町)	湯之池—手	洗(十町)	
手	洗—鉞	投(十三町)	手	洗—關	平(十一町)
手	洗—丸	尾(一里)	手	洗—林	田(一里十五町)

六、吉都線で飯野驛に下車して白鳥温泉より登山

飯野驛下車(吉都線)

飯野驛から白鳥温泉間は自動車路の開鑿中であるが既に白鳥門前迄は乗合自動車の便がある。白鳥神社に参拜し白鳥温泉迄は遠くない。温泉からの登山は急坂で六觀音迄は一里半の行程であるが二時間餘を要す。下りはよいが登りは聊か困難だ學生連中は是を踏破して健脚を誇るもよい。

七、宮崎縣高原驛からの霧島公園行の場合

高原驛下車(吉都線)

高原驛に下車すれば狹野神社に約三十町乗合自動車で十分とかゝらぬ。参詣を了つて上手の皇子原を見て直に高千穂登山にかゝると樂だが夫れでは折角の事に神秘其のもの、御池の近景を見落す憾

がある。再び引返して御池に至り更らに約十丁を後戻して霧島神宮の攝社たる霧島東神社に参拜すると境内に登山口がある此方は森林帯のつきる處から急斜面となり殊に二つ石附近は懸崖を攀ち木の根にすがつて登らねばならぬ難所がある事も豫期して行くことである。頂上迄の時間は普通四時間半。

皇子原から登れば山腹が電光形の道で左迄困難もなく、約四時間で高千穂の絶頂を極める事が出来る。俱足に自信がなく高千穂峯を望んで礎若たる人は高千穂と中山嶽の中間瀬戸尾越を経て高千穂河原に、近道して行けば二時間で達し得られるから登山者に同行者があればこゝで待受けるがよい。

八、右の外にも吉松、小林町等の各驛から公園地域内の諸峯に登る道はあるが、何れも小徑で案内なしでは六づかしい。

(12) 登山案内人

登山は大浪地位なら案内人を要せぬが韓國嶽から蝦野や新燃のツ、ジ觀賞、高千穂峯登り等は案内人を雇ふ事が現在の登山道状態では先づ安全である。案内人は警察署の認可を受けてゐる者計り故不安はない。案内人事務所に御知らせがあれば何時でも居るし、また旅館で迅速に御世話もする。料金も一定してゐるから極めて便宜である。

(13) 霧島山の気温

【四温泉附近】

温泉の一なる榮之尾温泉（八〇〇米）場に設置せる計器によれば、六月の平均気温は、攝氏十七度四、にして鹿兒島、宮崎、熊本、大阪に比し、四度乃至四度三、東京よりは三度一、臺北よりは九度〇、低く、札幌に比し、二度七、高し、七月の平均気温は二十一度四、にして鹿兒島、宮崎、臺北、よりも六度乃至六度八、低く、熊本、大阪よりは六度九、乃至五度八、東京よりは四度六、低く札幌に比し、〇度四、高し、八月の平均気温は二十一度四、にして鹿兒島、宮崎、熊本、大阪、東京、よりも五度乃至五度八、低く臺北よりは七度一、札幌よりは〇度六、低し、是れを要するに六、七、八の三ヶ月平均温度は鹿兒島、宮崎、熊本、大阪よりも五度乃至、五度四、臺北より七度六、東京より四度三低く、札幌より〇度九、高し、斯の如く霧島温泉の夏は札幌の夏、其儘なるも朝、及夜間の温度は三度高い、二六時中温度の差が余らないと云ふ事が霧島の特徴と云ふべきであらう。

汽車發着時間表

霧島神宮驛(日豊線)

前	六時四十二分	都門	行
後	八時三十一分	都門	行
後	十一時二十三分	津城	行
後	一時四十分	中城	行
後	四時二十二分	司城	行
後	七時二十一分	宮崎	行
後	十時〇三分	宮崎	行

牧園驛(肥薩線)

前	六時四十五分	都門	行
後	九時五十一分	都門	行
後	〇時三十分	八代	行
後	二時五十三分	八代	行
後	六時〇八分	佐伯	行
後	七時四十一分	都吉	行
後	十時〇三分	都吉	行

【下り】

前	七時〇八分	鹿兒島	行
後	九時五十四分	鹿兒島	行
後	〇時十九分	同	行
後	三時四十分	同	行
後	四時四十六分	同	行
後	六時〇九分	同	行
後	九時十六分	同	行

【下り】

前	八時〇三分	鹿兒島	行
後	九時五十分	鹿兒島	行
後	一時五十一分	同	行
後	四時十五分	同	行
後	七時十九分	同	行
後	八時五十九分	同	行

日豊線乗替鹿兒島行連絡

温泉旅館宿料

- 一、霧島館、林田館、高千穂館
- 一泊二食 二圓乃至四圓
- 一、丸尾館、嶽湯南洲館、霧島神館各旅館
- 一泊二食 二圓乃至三圓

温泉貸間自炊部

- 一、山中各温泉自炊入湯料
- 一日一人 二十錢乃至五十錢
- 一間貸切一日 六十錢乃至二圓

但特別離間は季節により多少差違あるは免れず



昭和九年六月卅日印刷
昭和九年七月五日發行

鹿兒島縣廳內

編輯兼 霧島國立公園協會
發行者

右代表者 富 田 重 治

東京市京橋區築地四丁目四番地

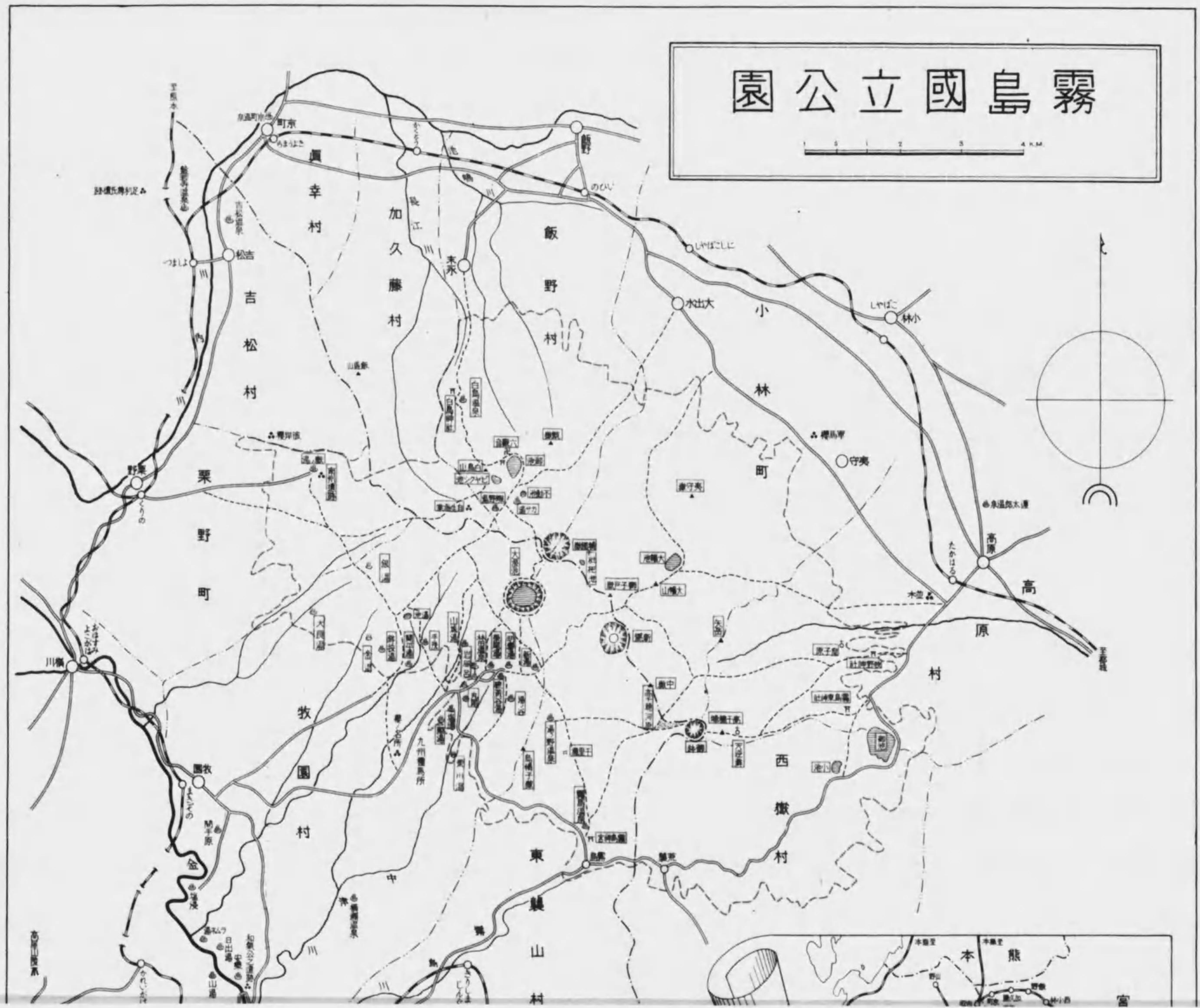
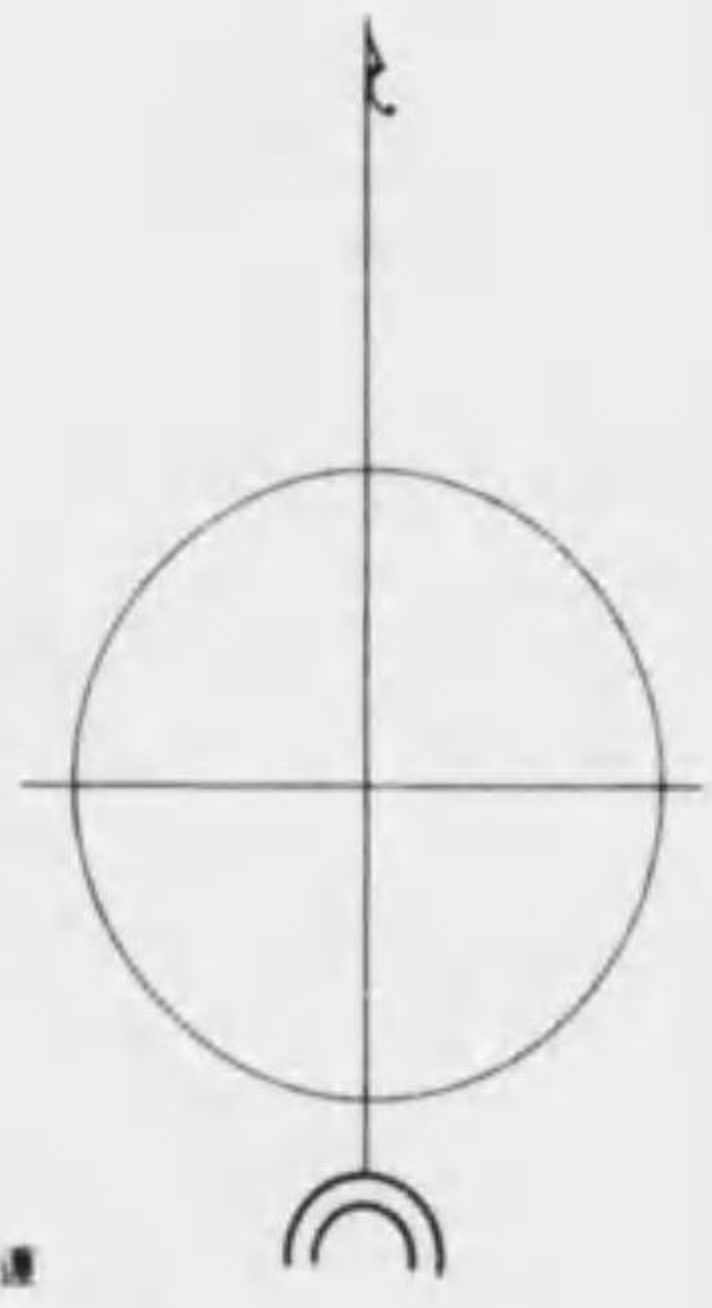
印刷人 鈴 木 茂

東京市京橋區築地四丁目四番地

印刷所 中屋三間印刷株式會社

第一卷 二圓
第二卷 二圓
第三卷 二圓
第四卷 二圓
第五卷 二圓
第六卷 二圓
第七卷 二圓
第八卷 二圓
第九卷 二圓
第十卷 二圓

霧島國立公園



終

